



先家  
活花

詩歌俳

加多美

下

P  
542  
3

逍遙文庫  
文庫6  
2060  
3













蘭二枚三株

器唐金文化八年從  
君侯賜之

銘云

奉過去源氏

永萬二年西成四月廿日

大檀主僧安西

女施主物部氏

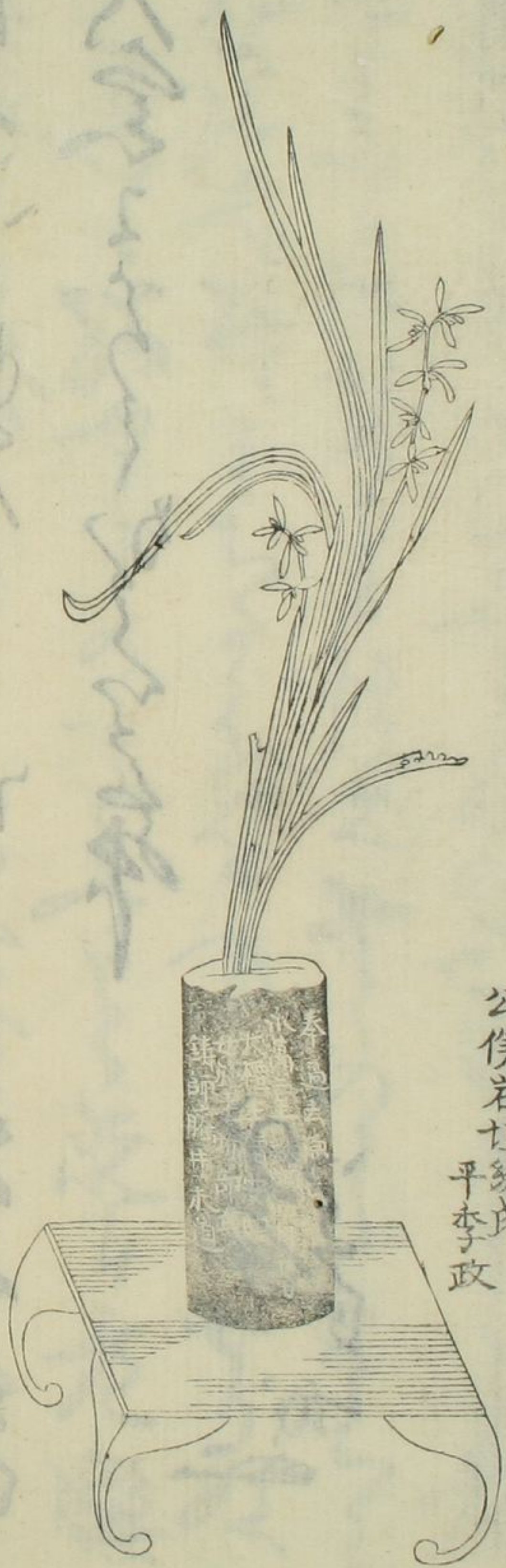
鑄師藤井末道

執筆僧仁耀

勸進聖人僧榮覺

公侯岩垣縁氏

平李政



美月齋紅器



白虎

美月齋紅器の銘云  
奉過去源氏  
永萬二年西成四月廿日  
大檀主僧安西  
女施主物部氏  
鑄師藤井末道  
執筆僧仁耀  
勸進聖人僧榮覺  
公侯岩垣縁氏  
平李政





松

器椽桐圍二尺三寸

芙月齋

松の葉は青く  
 花は白く  
 実の味は酸っぱい  
 松の皮は薬になる  
 松の根は薬になる  
 松の葉は薬になる  
 松の皮は薬になる  
 松の根は薬になる  
 松の葉は薬になる

松の葉は青く

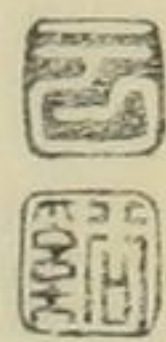
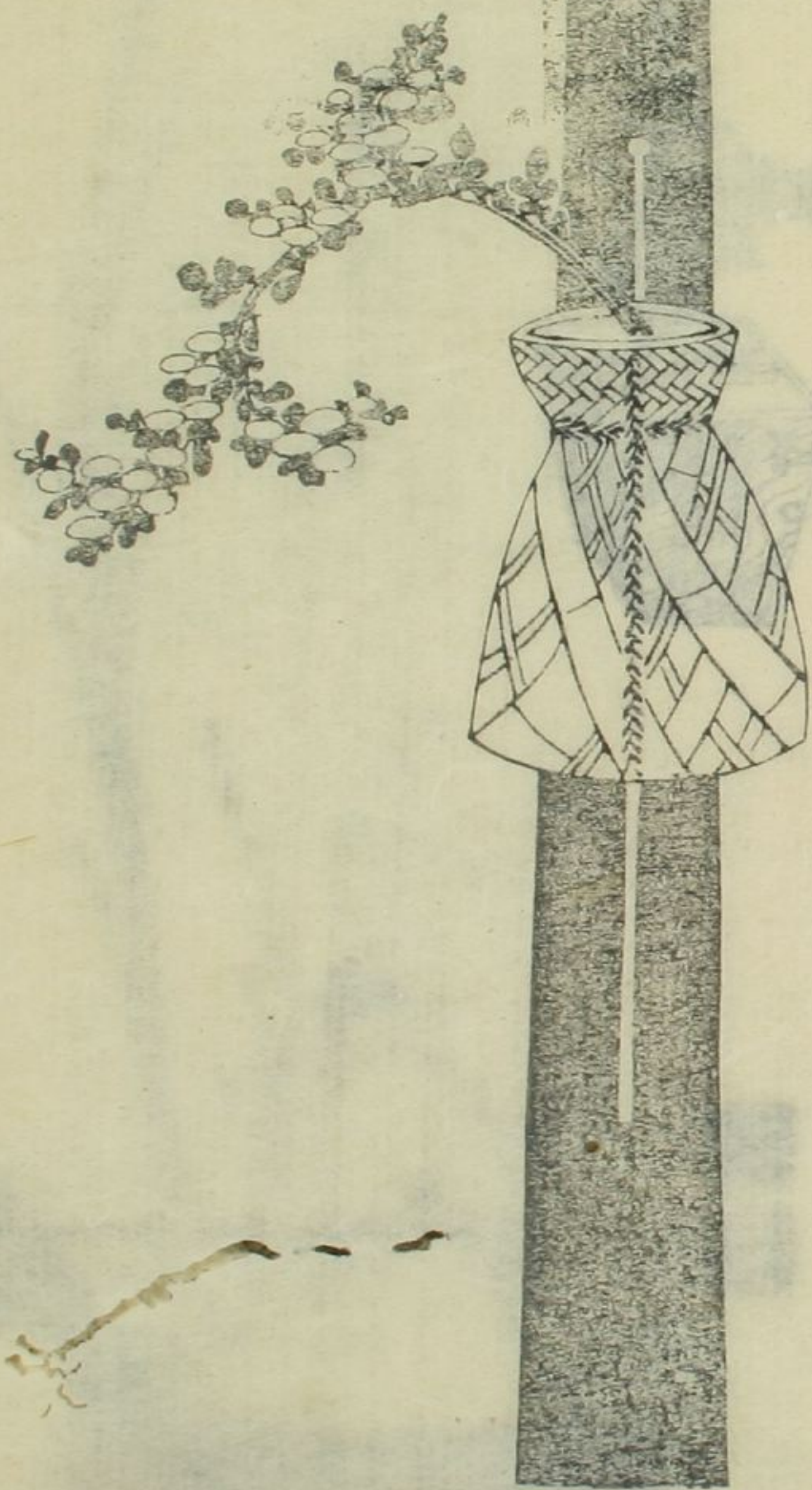
花は白く

実の味は酸っぱい





黄菊



全

柳小景

杜若

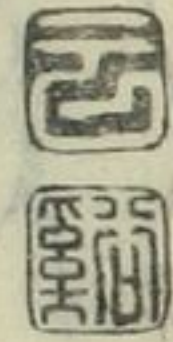


全





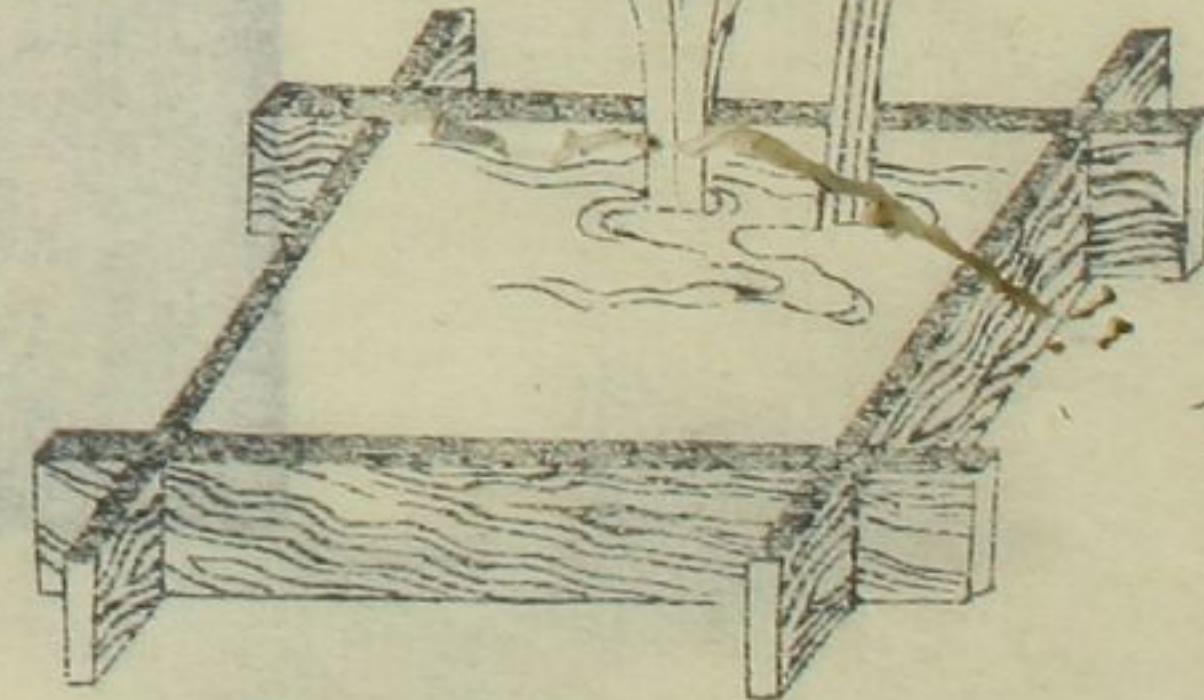
青の葉  
小き久



全



久



全

好む  
杜若

五



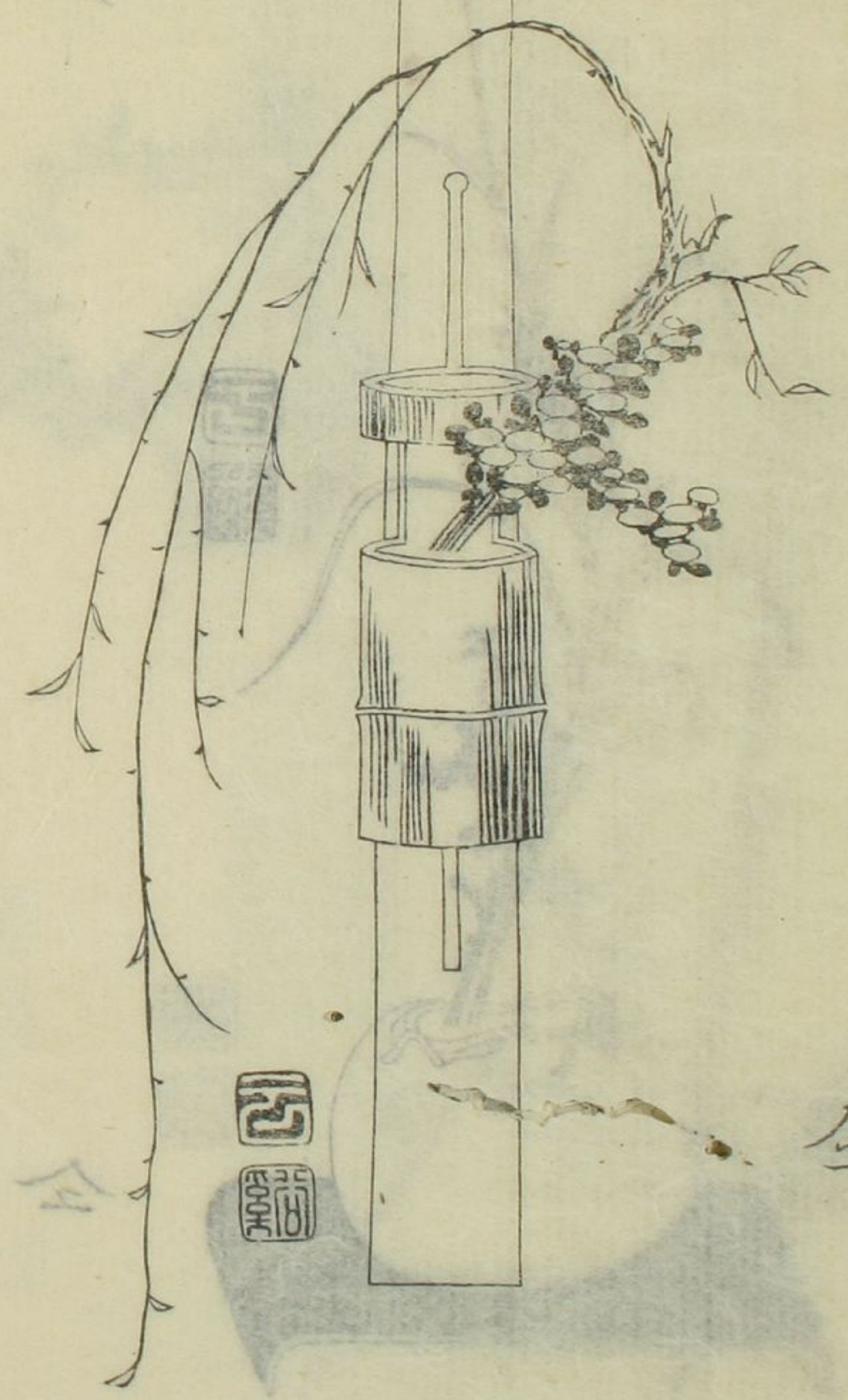
梅  
水仙



獨醒軒  
虛舟



柔柳



小意人  
春風



全



獨醒軒



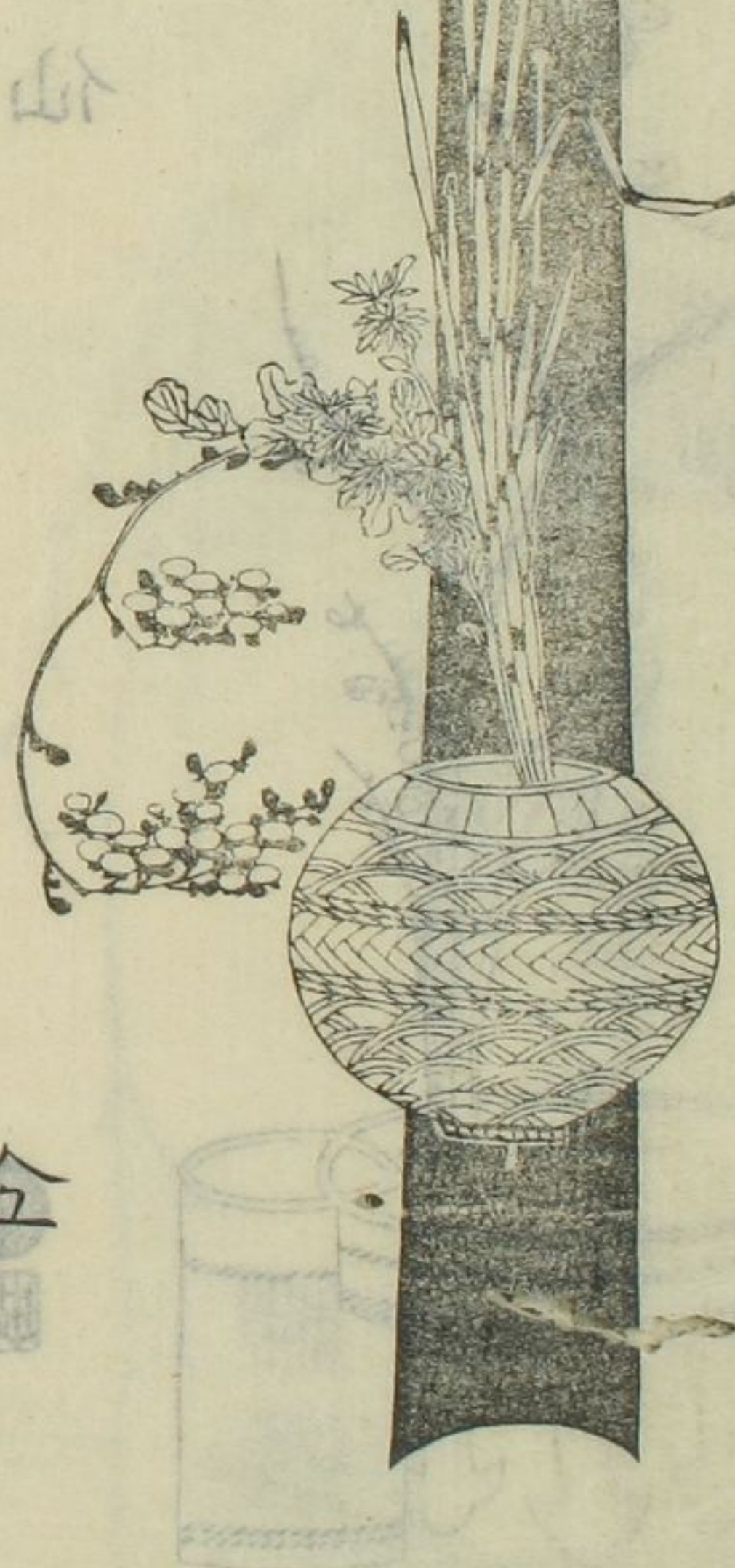
あかり  
紫  
楳



木賊

赤黄小きく

蘇  
水  
山

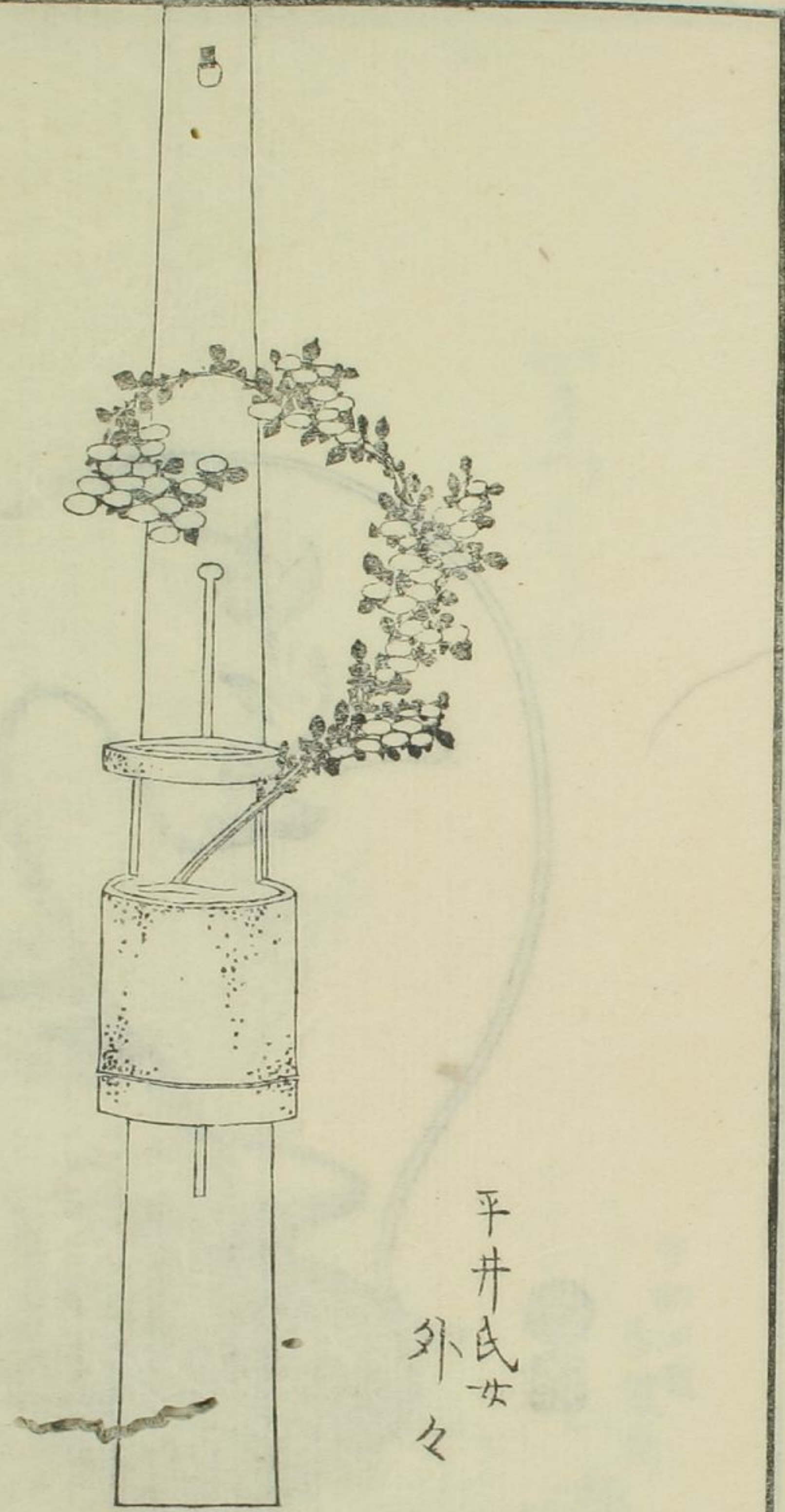


全



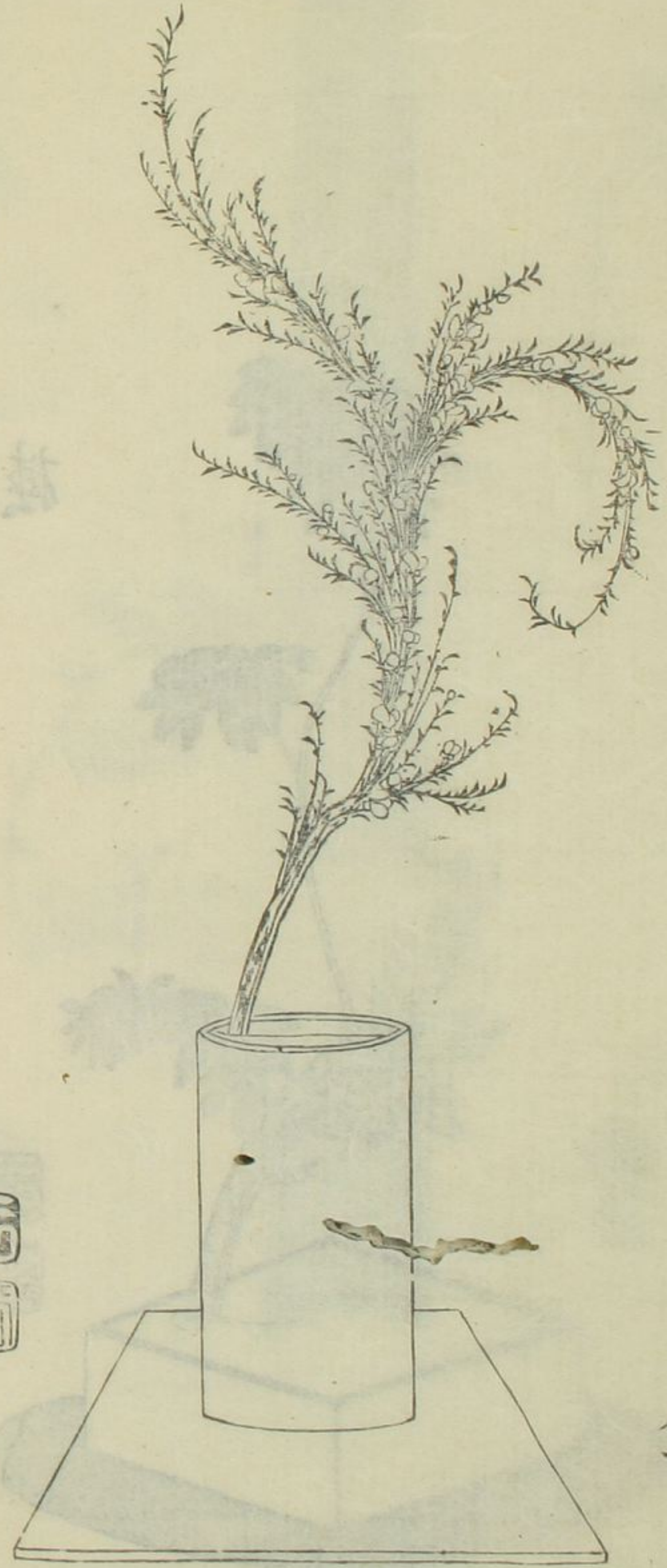


黄小菊



平井氏女  
外々

黄小菊



全

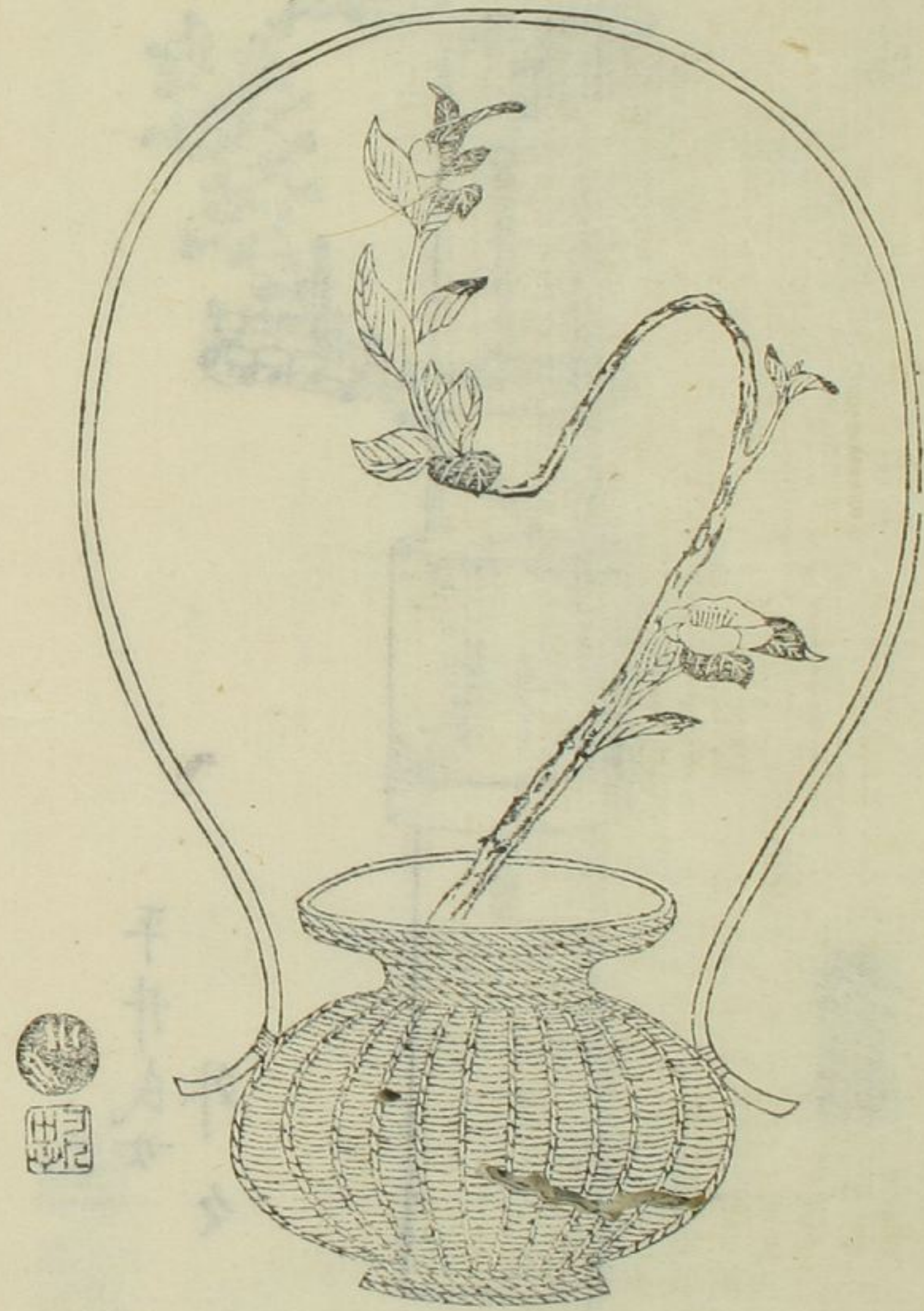




かきつばた

宇和山越  
春霞齋  
一櫻

栴



二橋

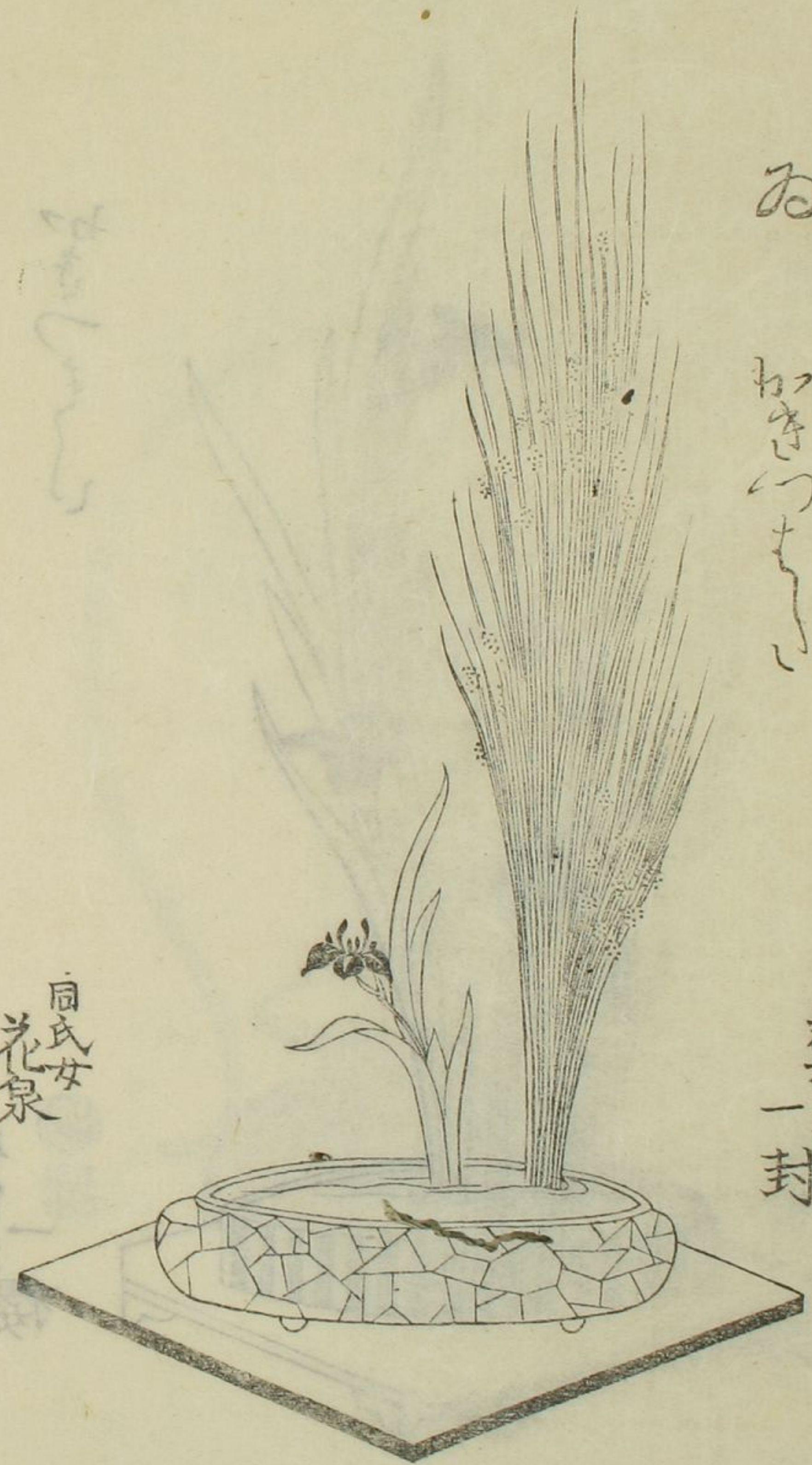
年下  
九





おきん  
おきん

一櫻



おきん

宇和山越  
嘉樹齋  
一封

同氏女  
花泉

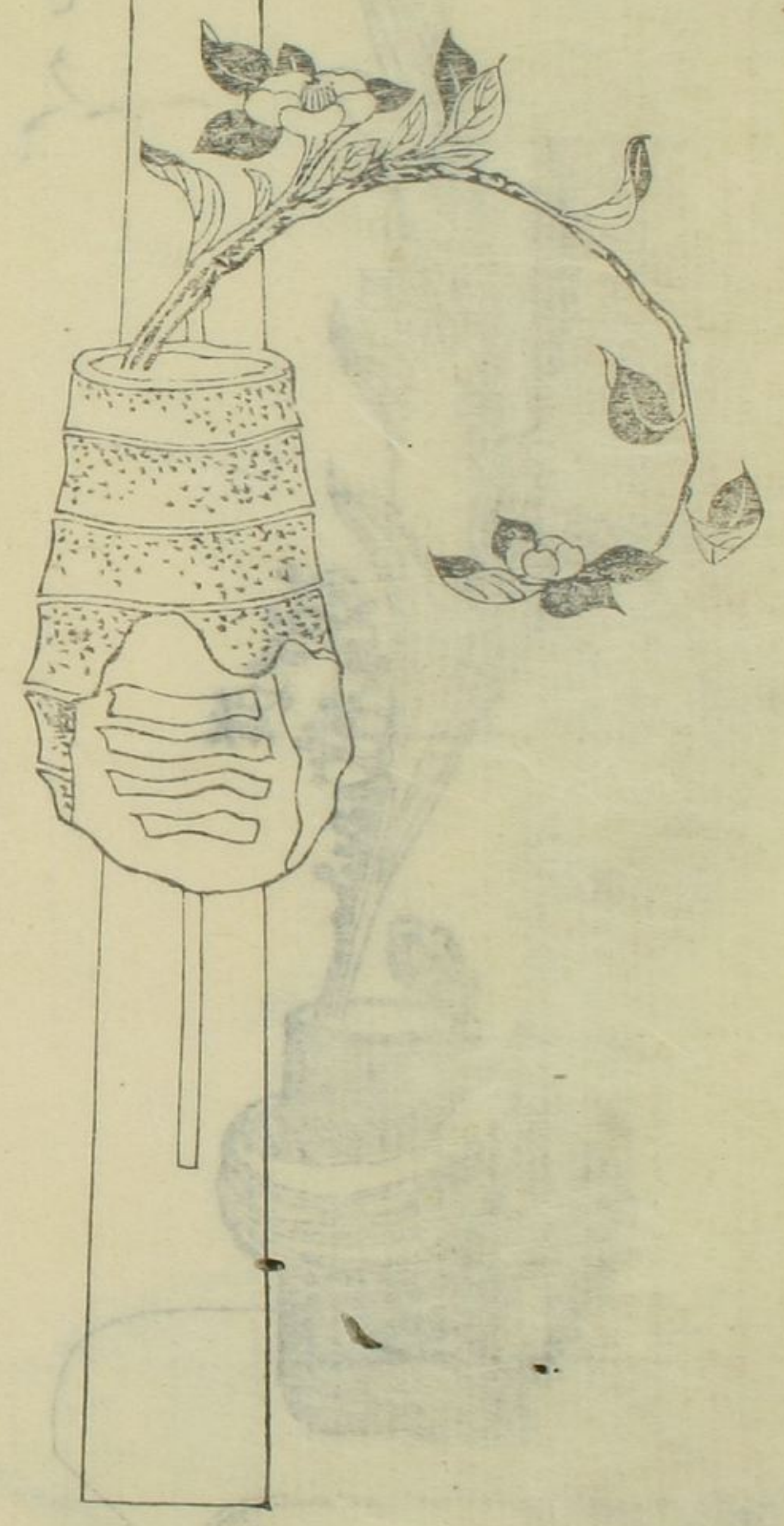




Two square red seals, likely artist or collector marks, located to the left of the vase.

全

弓  
王

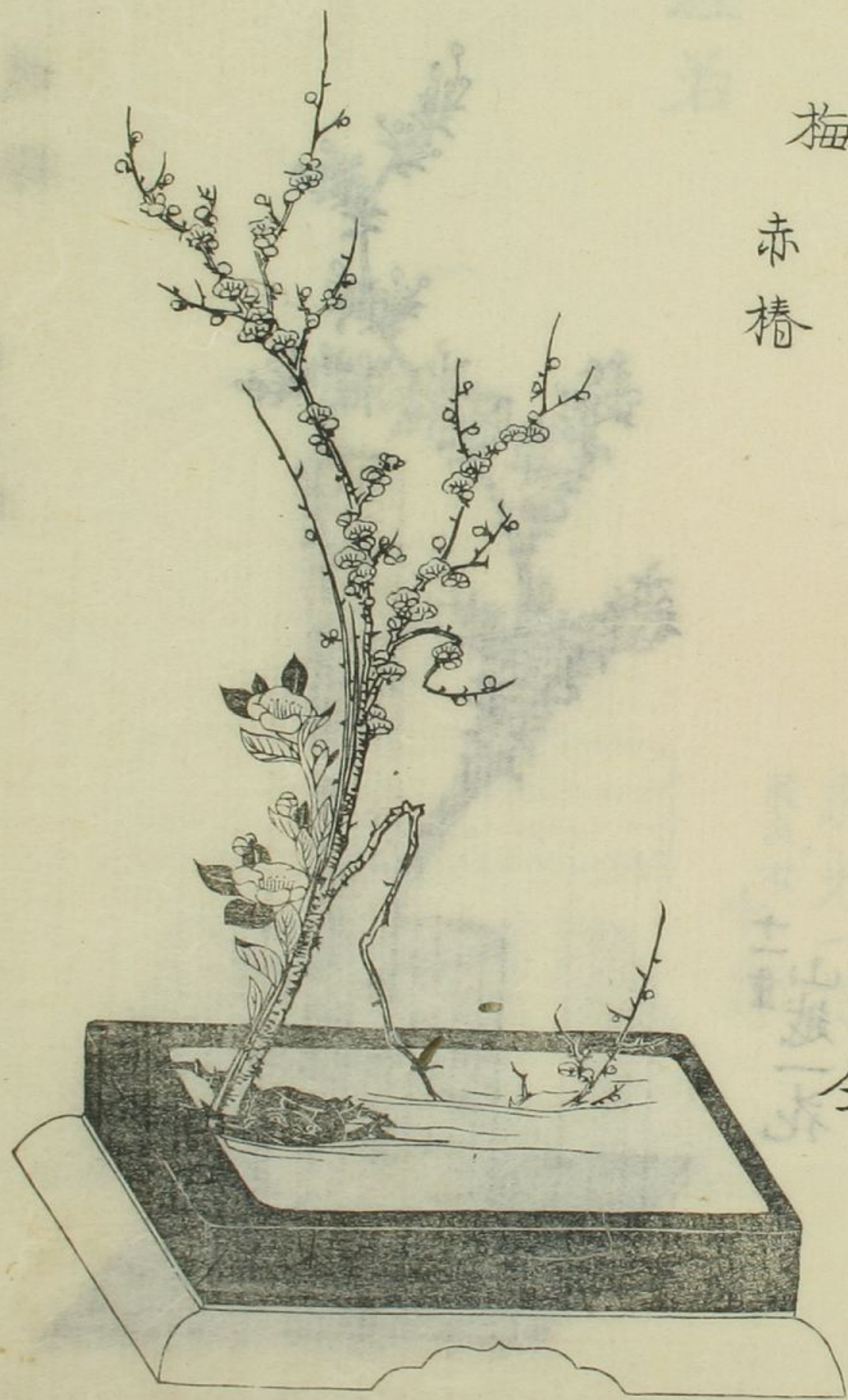


橘

全

筆  
十





梅  
赤椿

全



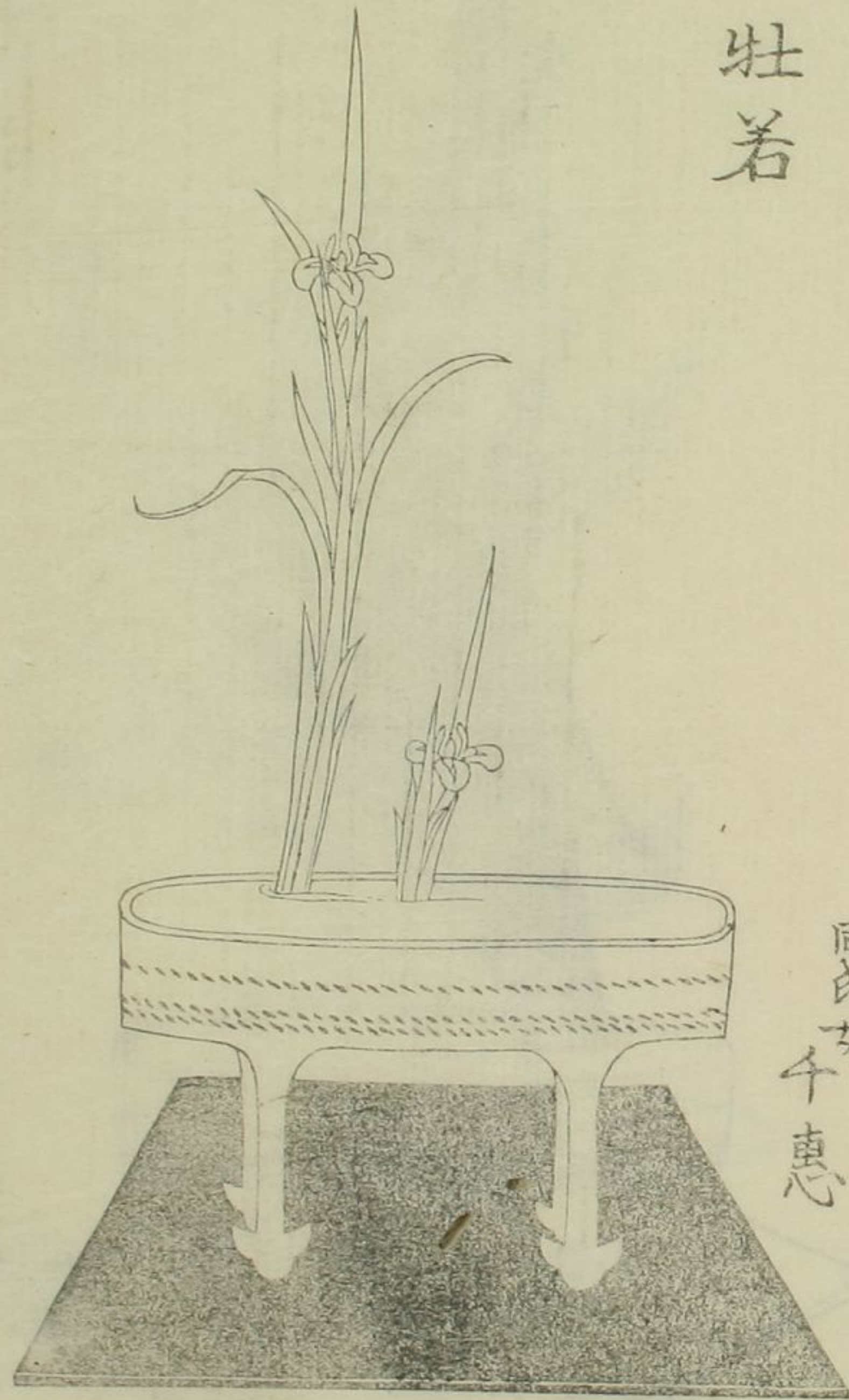
空林

一封



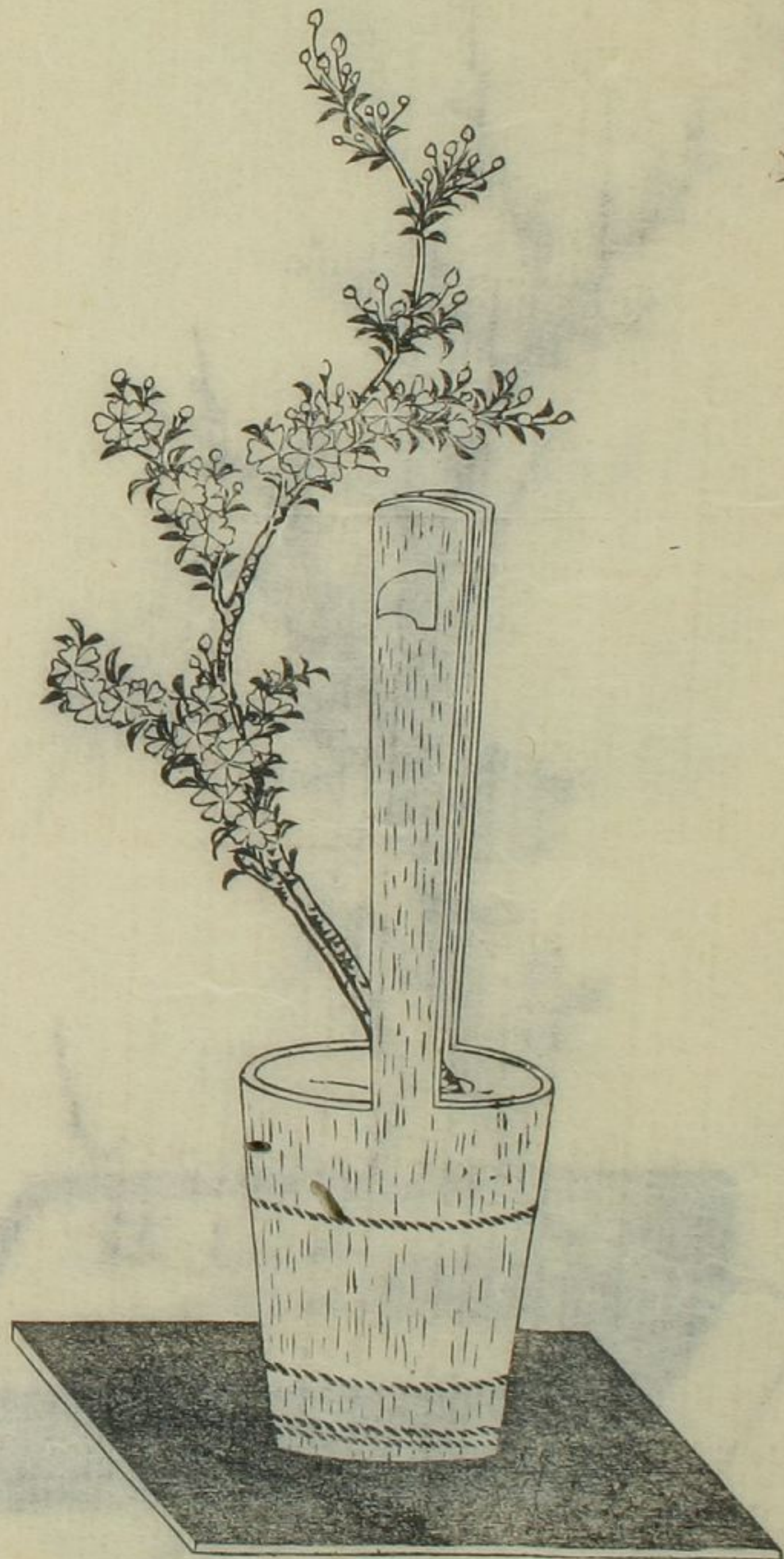


牡若



宇和東山田  
末光一探  
同氏女  
千惠

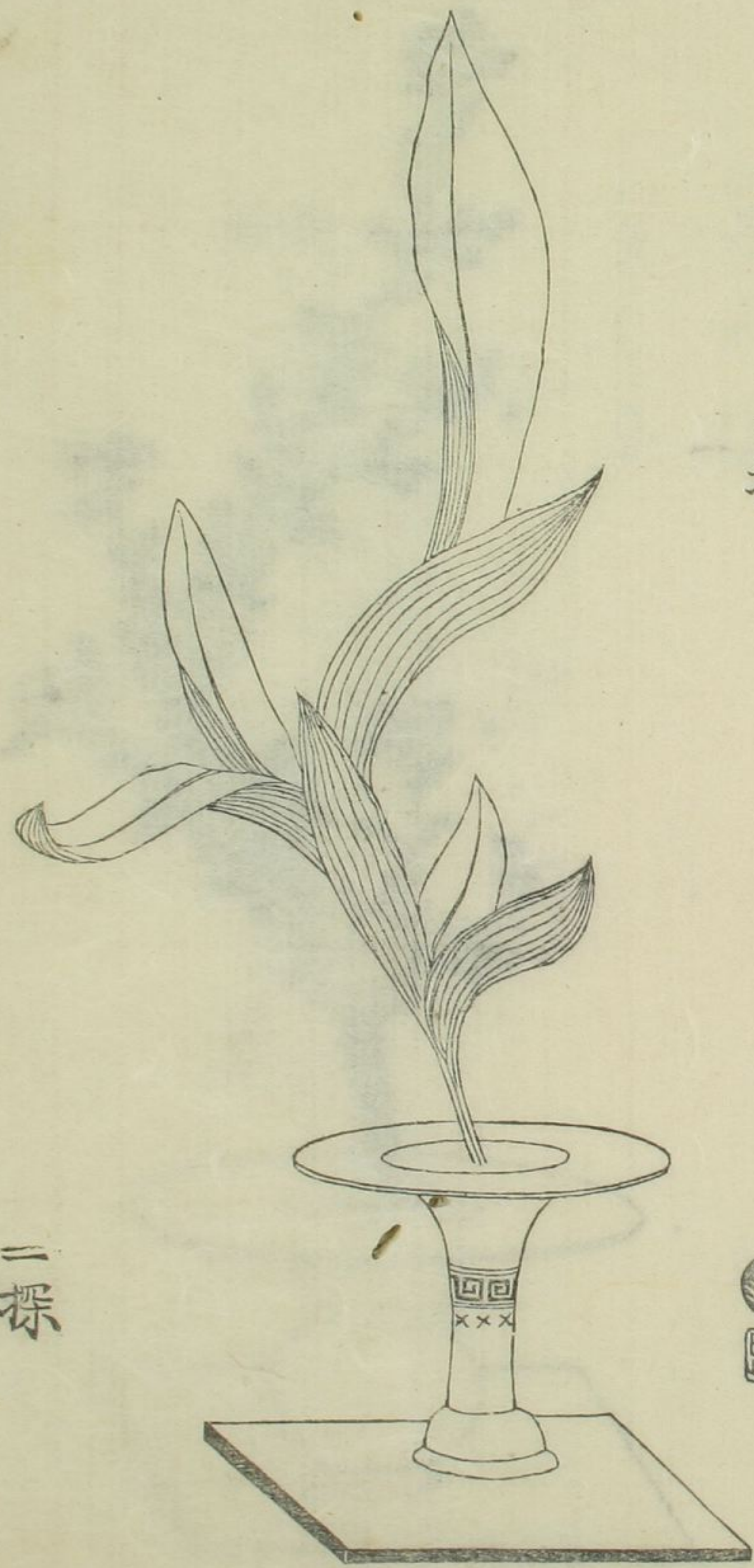
媿櫻



器ヒロウ樹

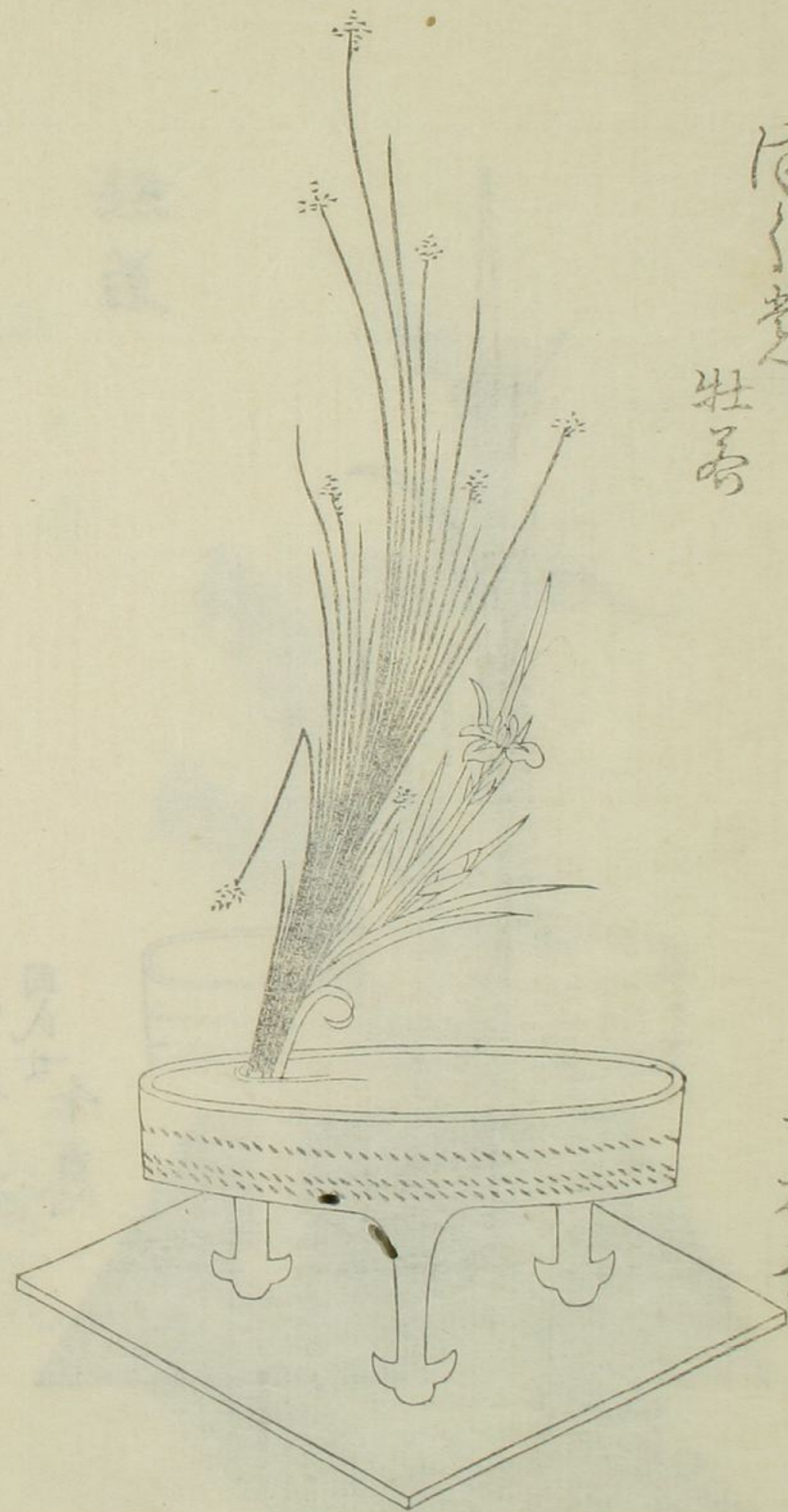
十童  
山越一花





馬蘭七枚

二探



律々志  
牡丹

宇和岩木  
靈巖山  
一株齊

等  
十四





黄大菊  
小菊

全



大菊

全



卷下  
十五

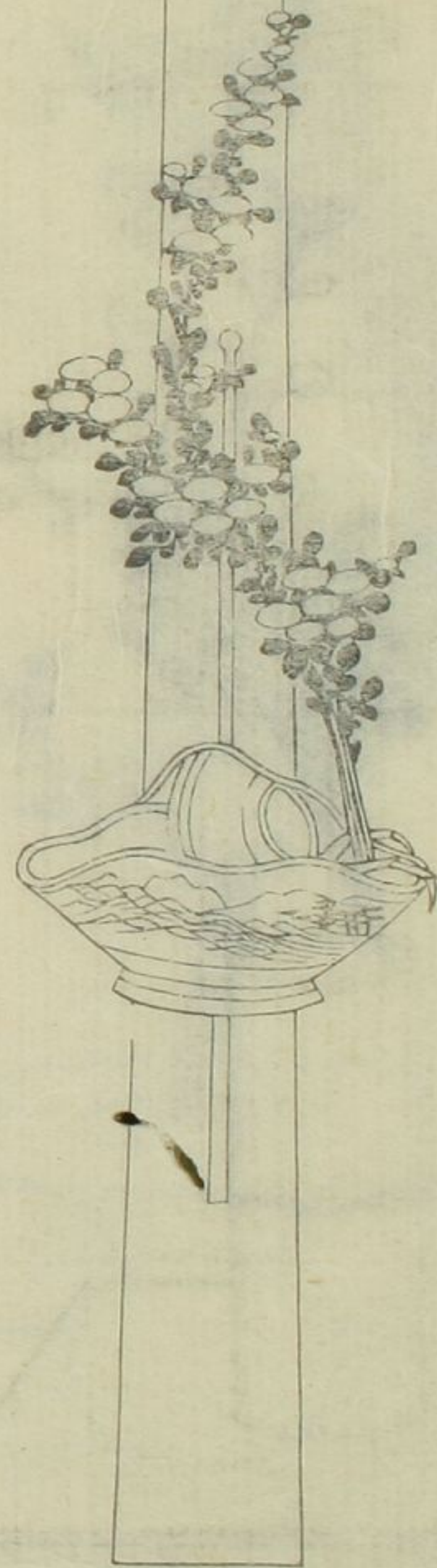




紫苑

全

山  
丁  
七

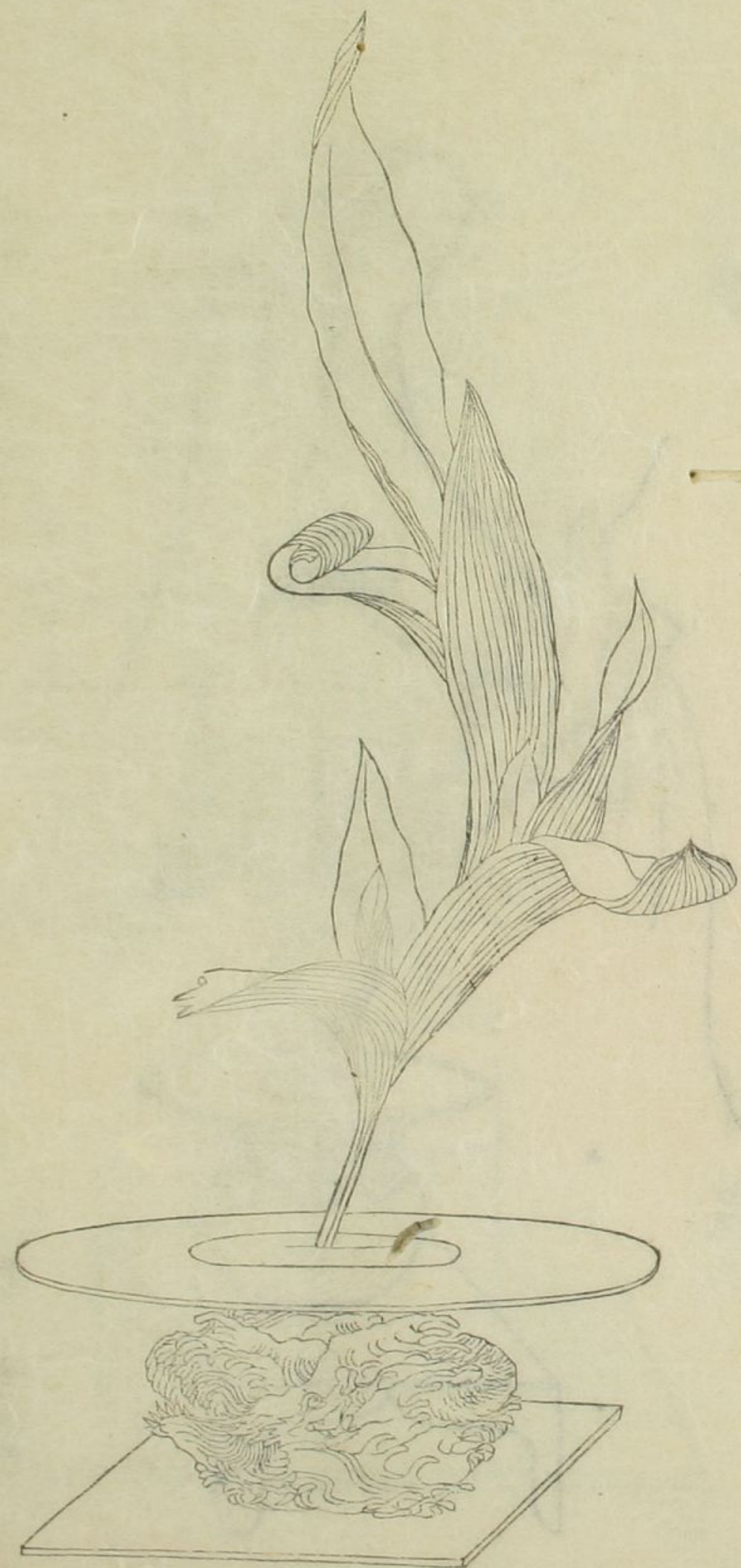


赤中  
字

寺和永長  
宮瀬渭川

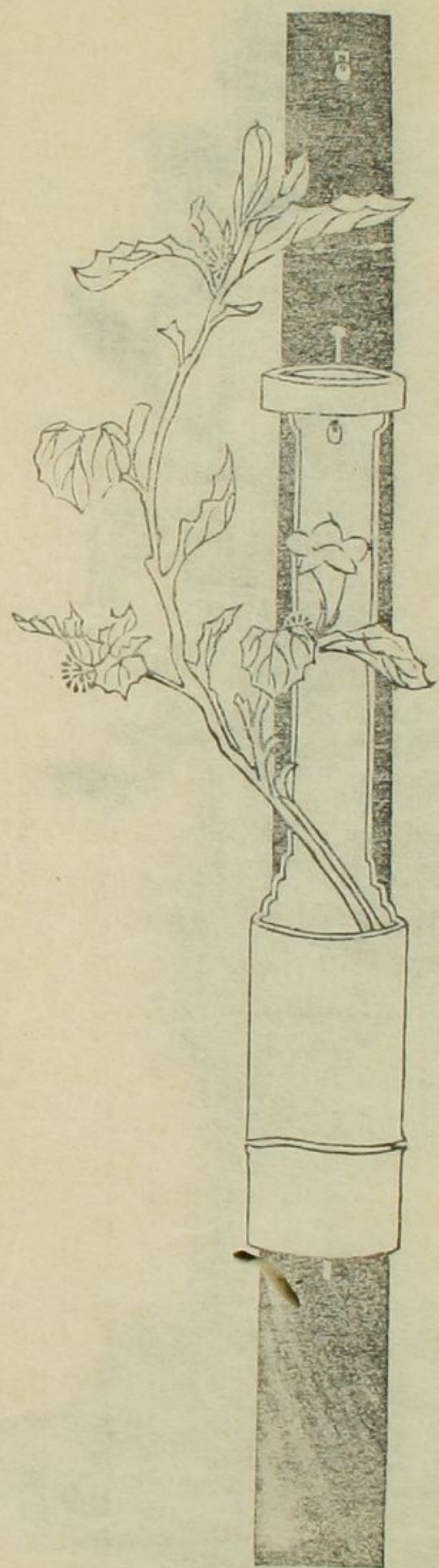
年  
丁  
七





花らん九  
収

全

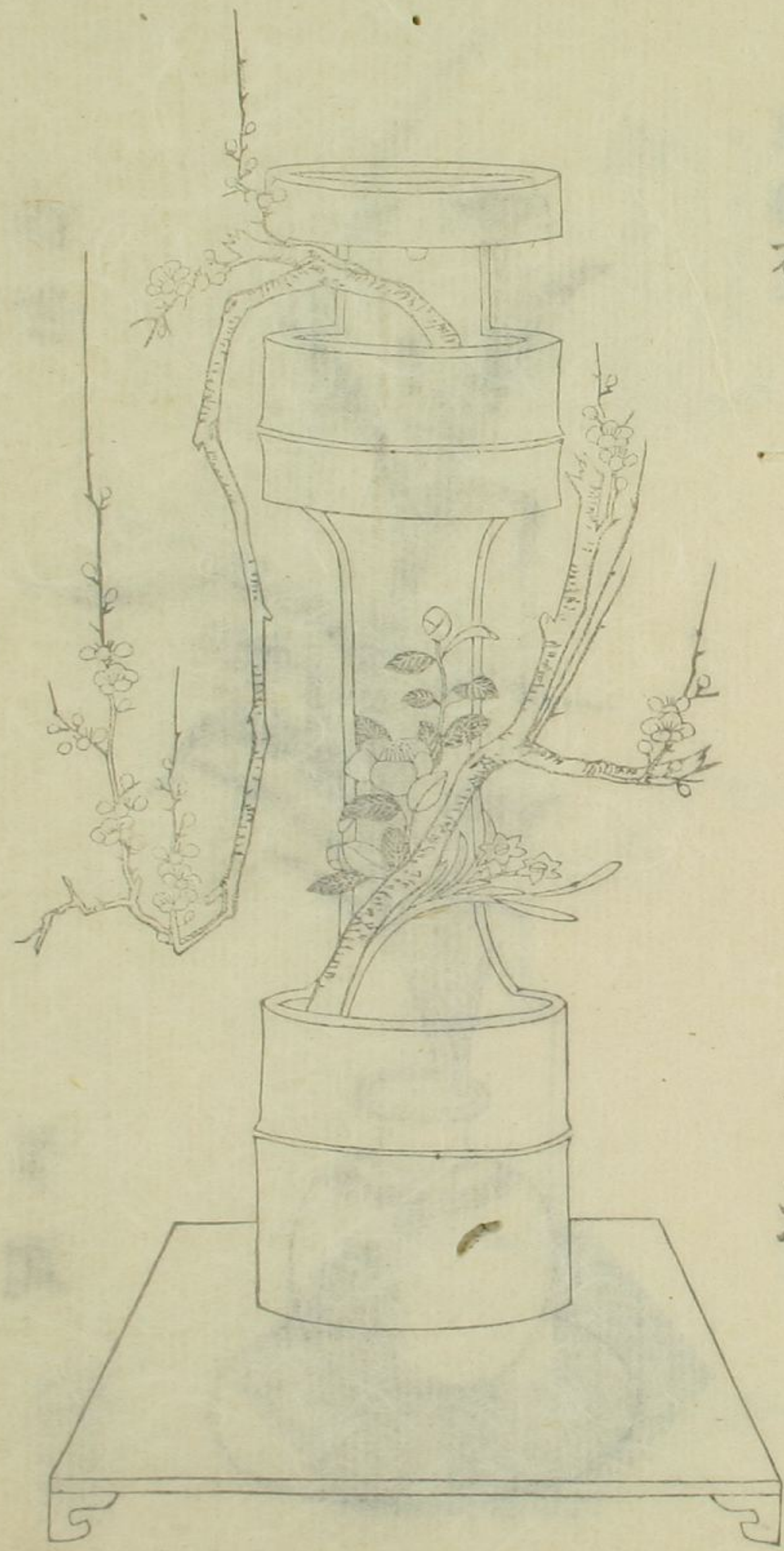


曼陀羅華

全

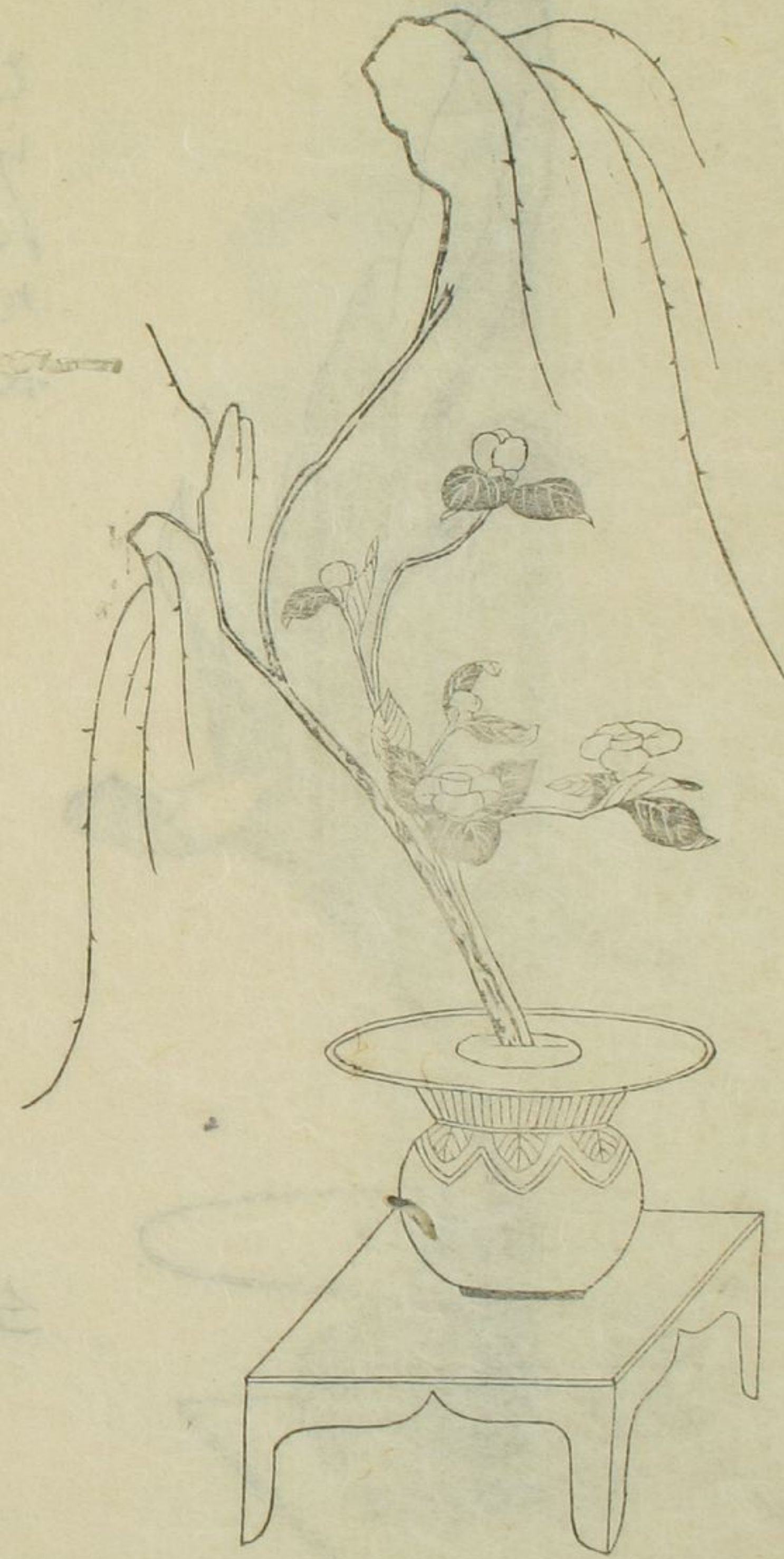
曼陀羅華





喜  
椿  
水  
沾

乍  
一  
潤  
葉



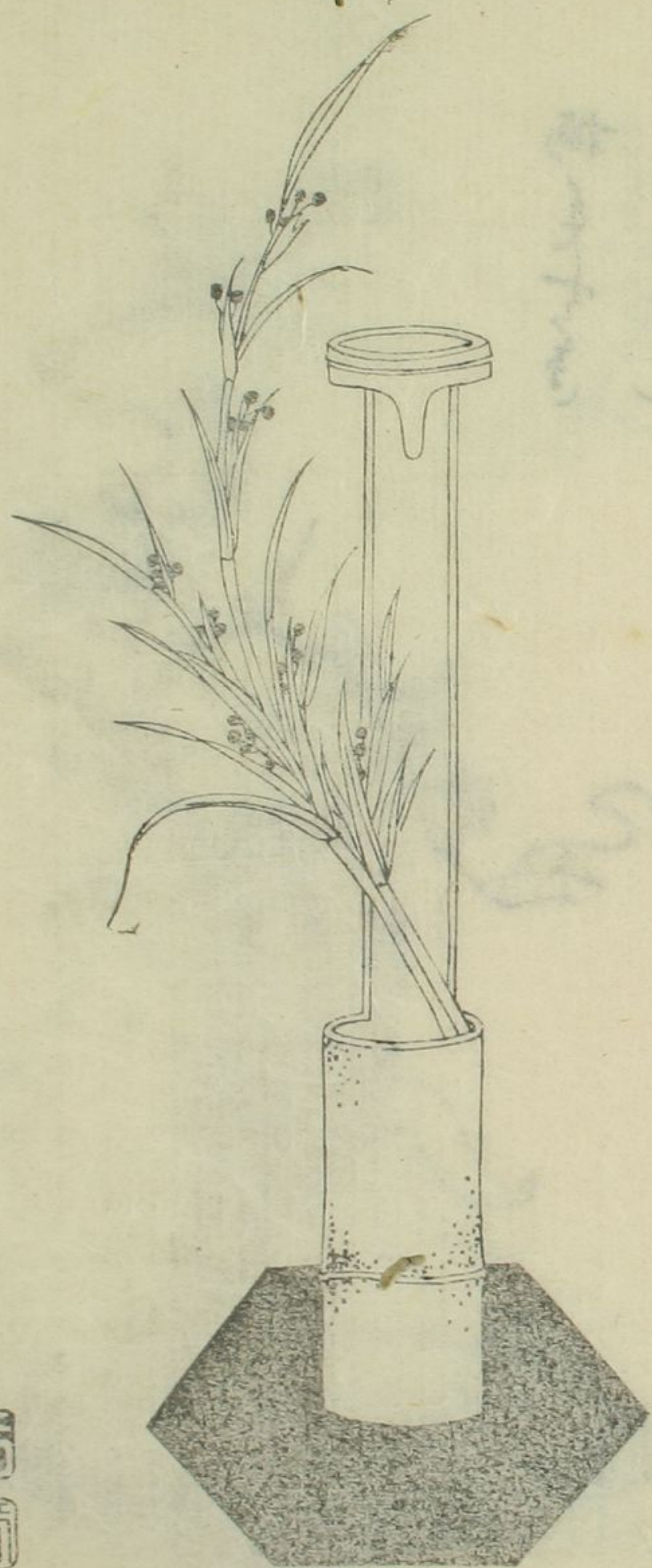
柳

乍  
潤

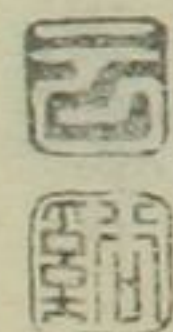
守和岩木  
和氣一葉  
同乍潤



珠數玉



乍潤



百合



乍潤

卷下  
十九



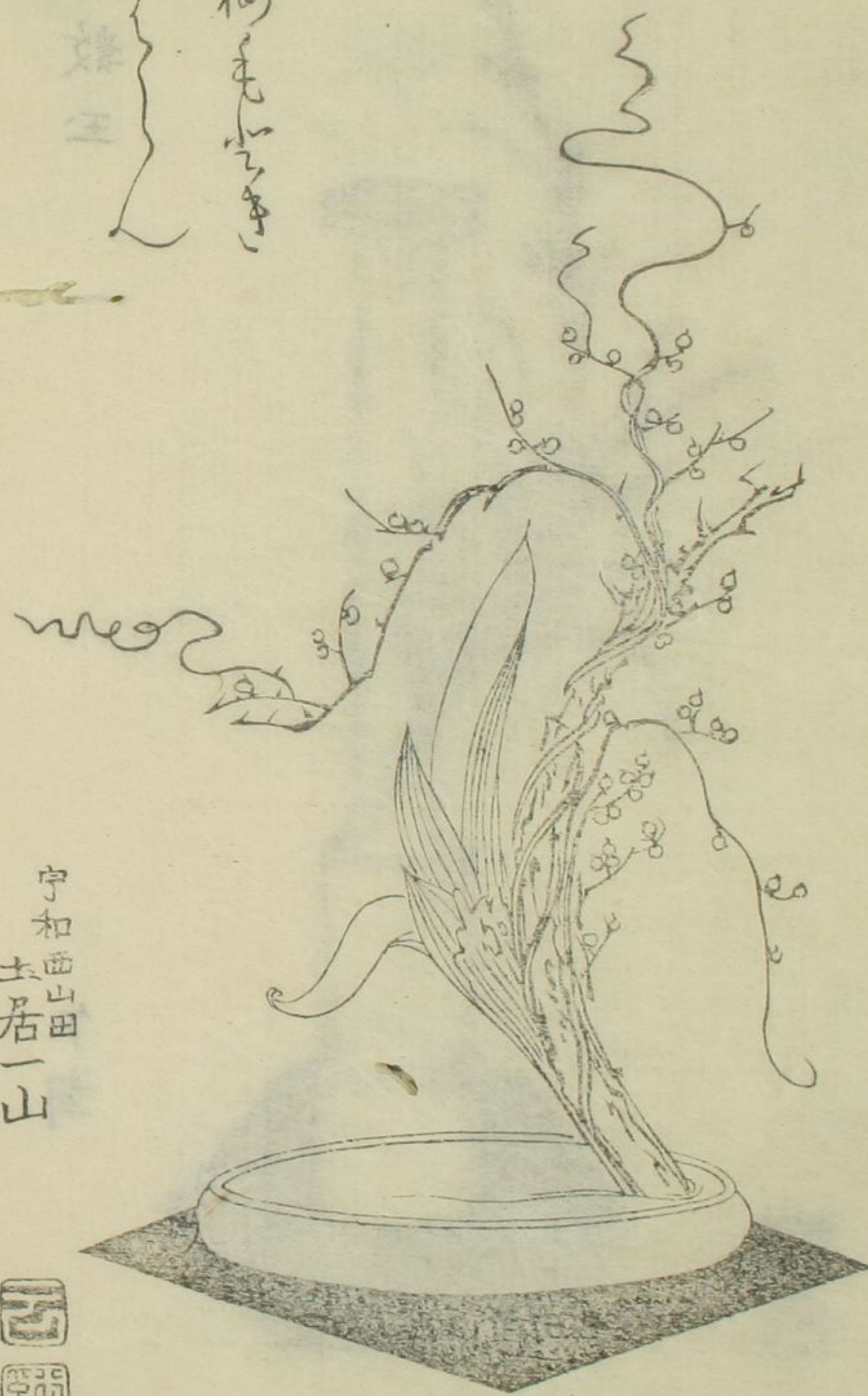


ひま  
まの  
えん

宇和  
小原  
神護山  
一枝

梅  
毛  
山  
水  
居  
一  
山

宇和  
西山  
土居  
一山



全

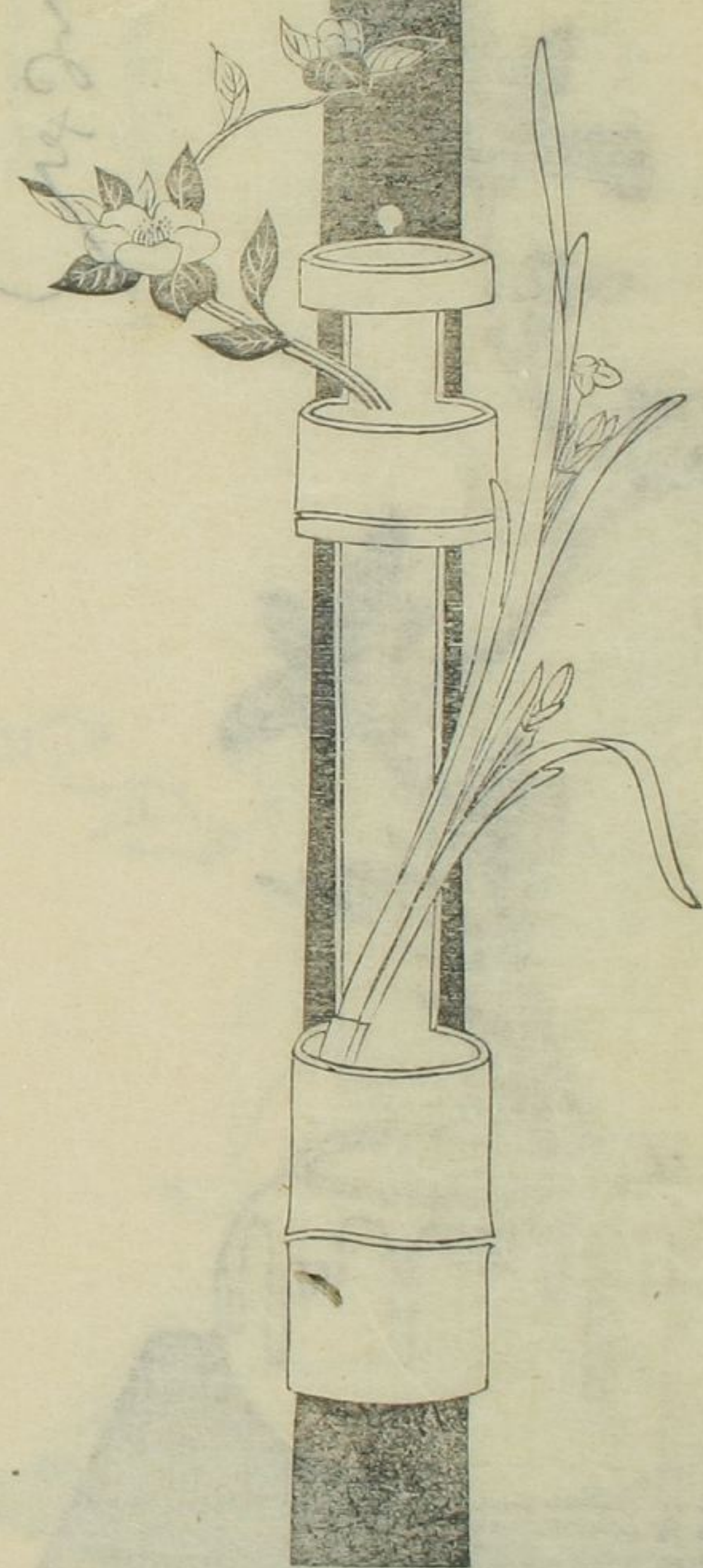
二十





小  
さ  
い  
ん

中和清澤  
末光崔友  
同氏女  
光此



椿  
水  
仙

矢野  
石山  
井蛙



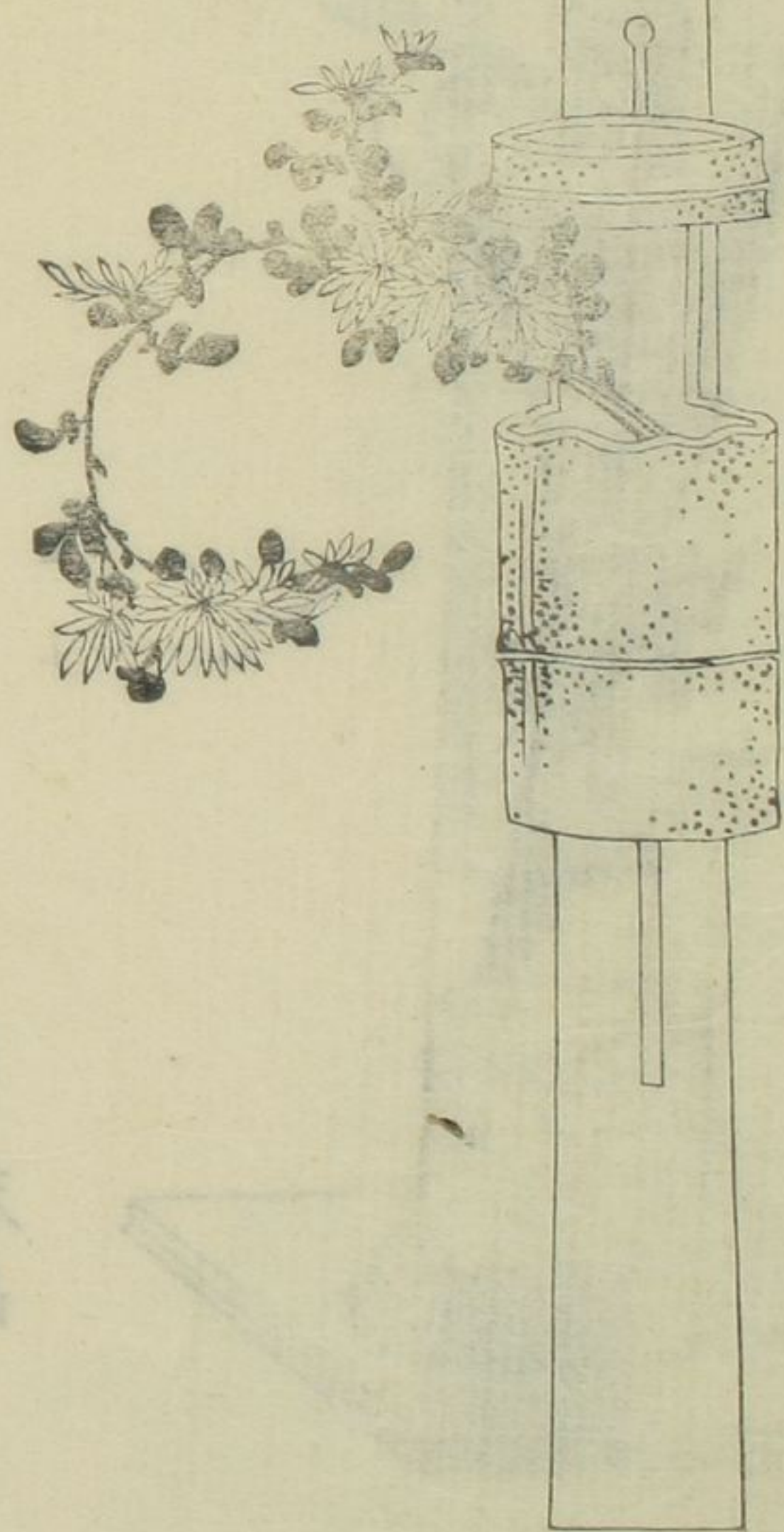
水仙



宁和小原  
清家一舟



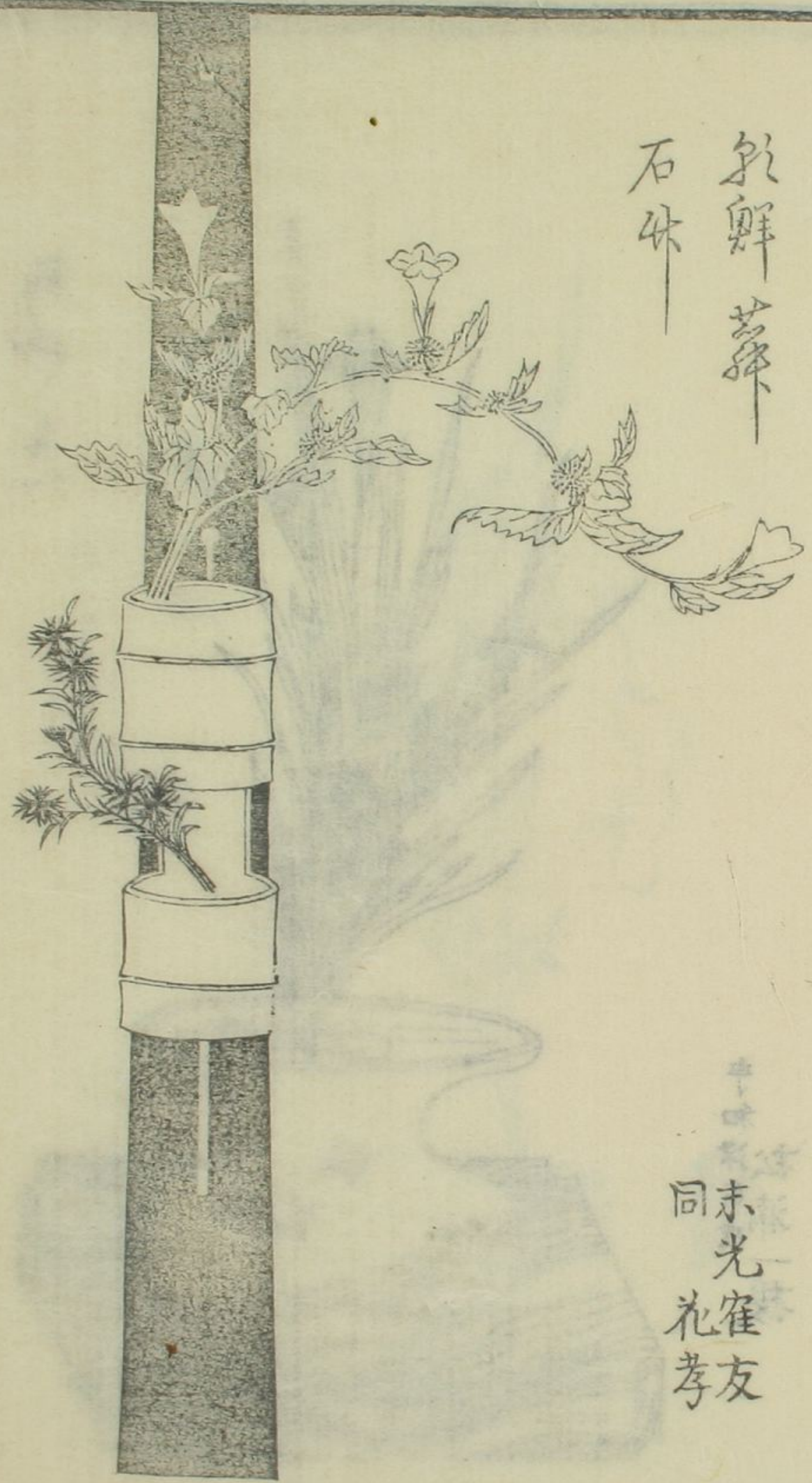
黄菊去海



崔友

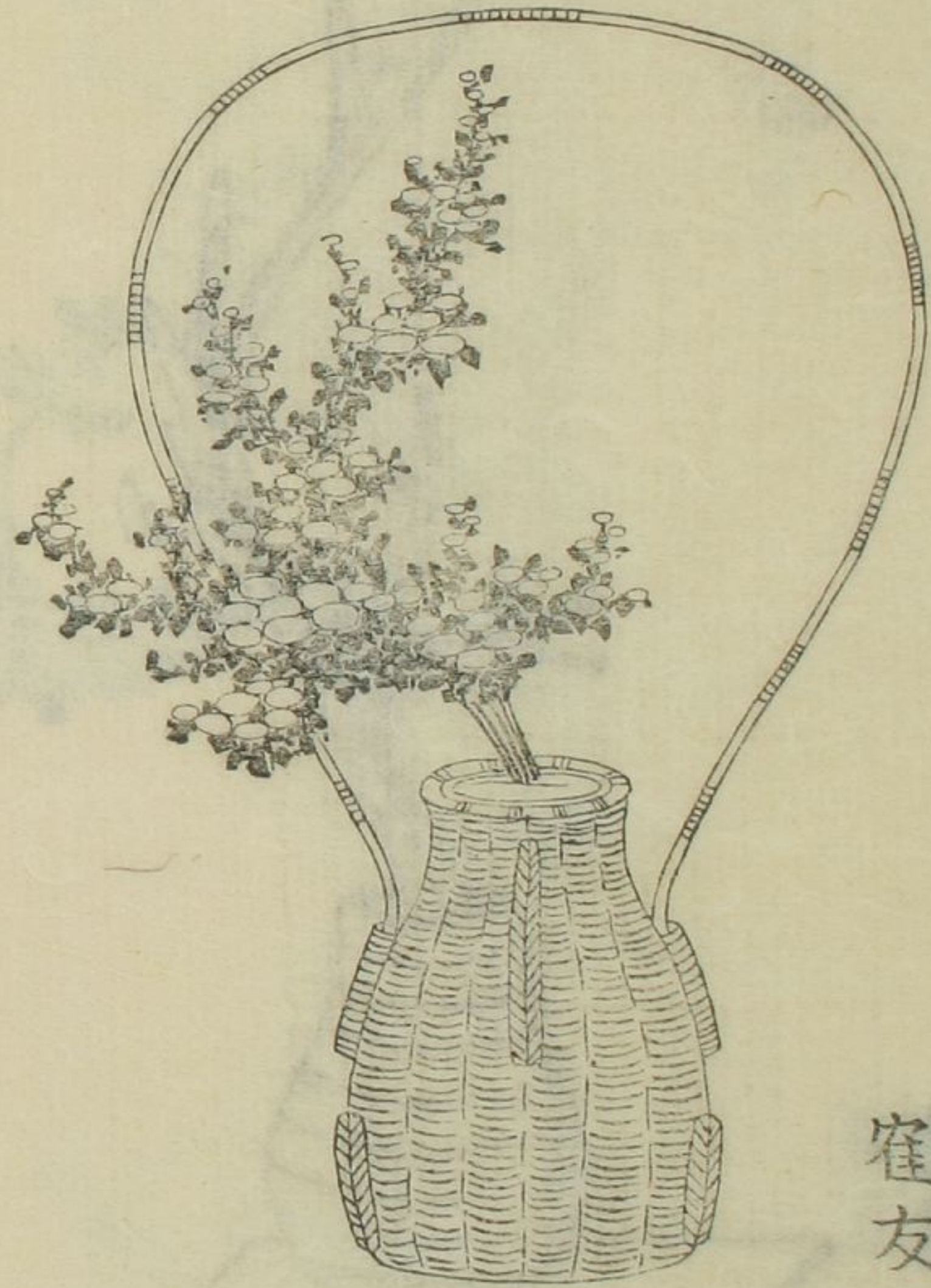
同月廿五日  
清家一舟





石休  
 乾解  
 蘇

末光  
 花雀  
 孝友



小  
 子  
 々

雀  
 友



水  
 山

一  
 舟



馬蘭九枚  
朝あか

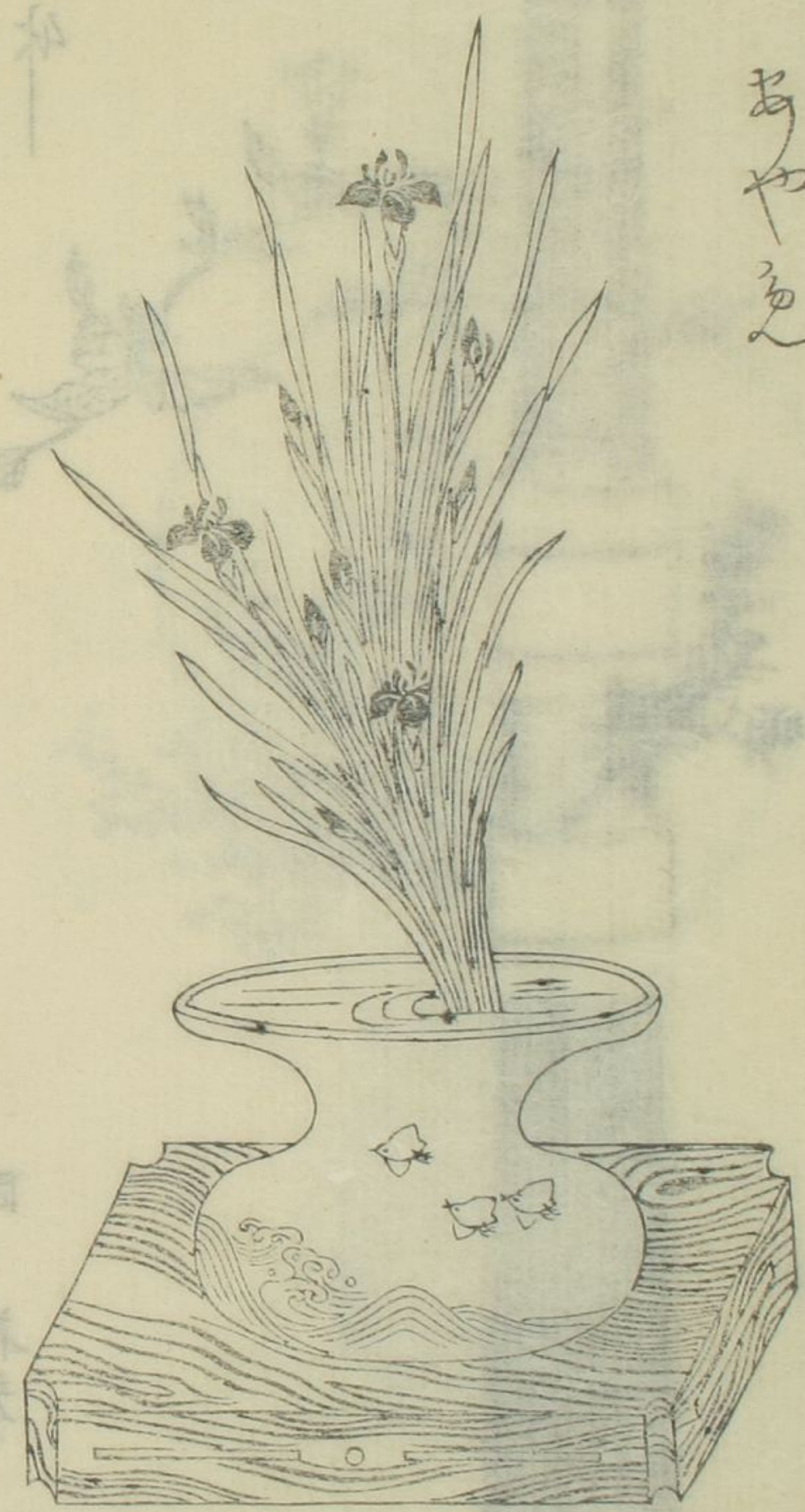


清家紫莖



松浦一い枝

あかあし

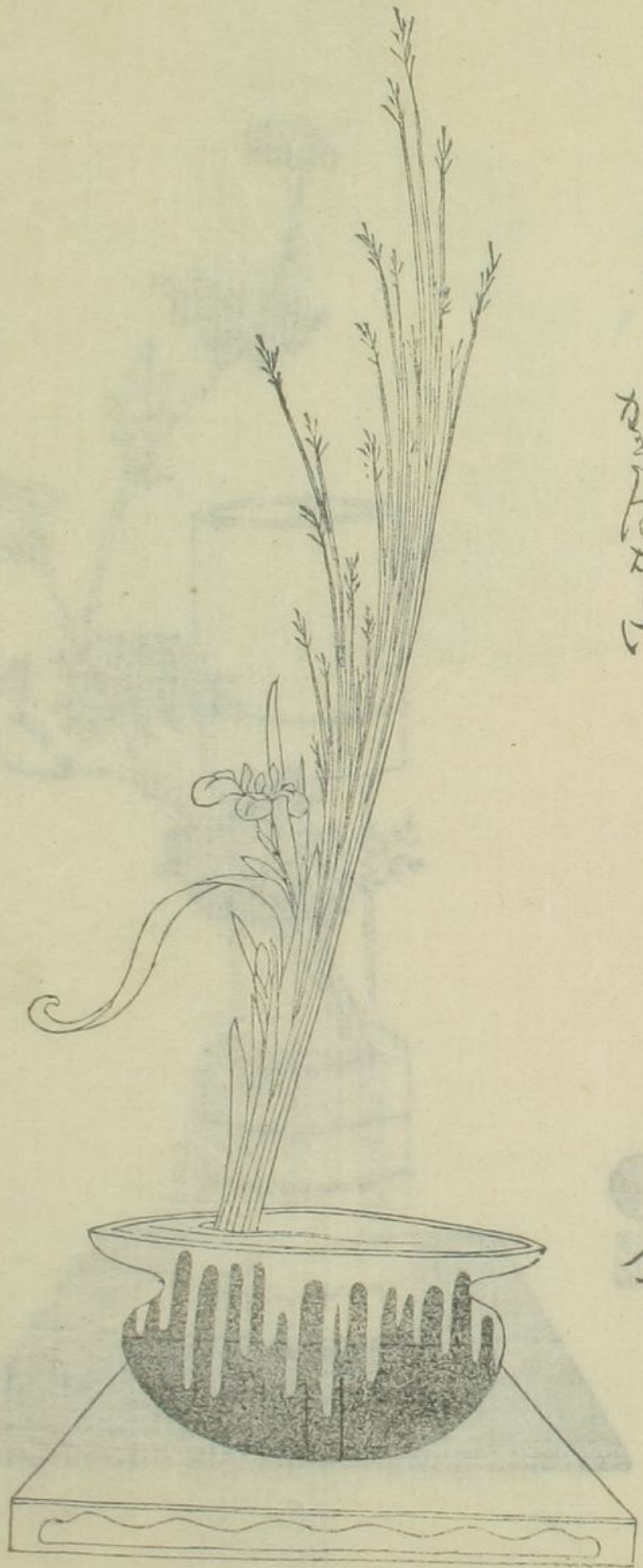


宇和津布理  
松浦一い枝

三六  
七五

五十一  
丁四





大蘭  
かきほろこ

全



五  
五



かきほろこ

全



五  
五

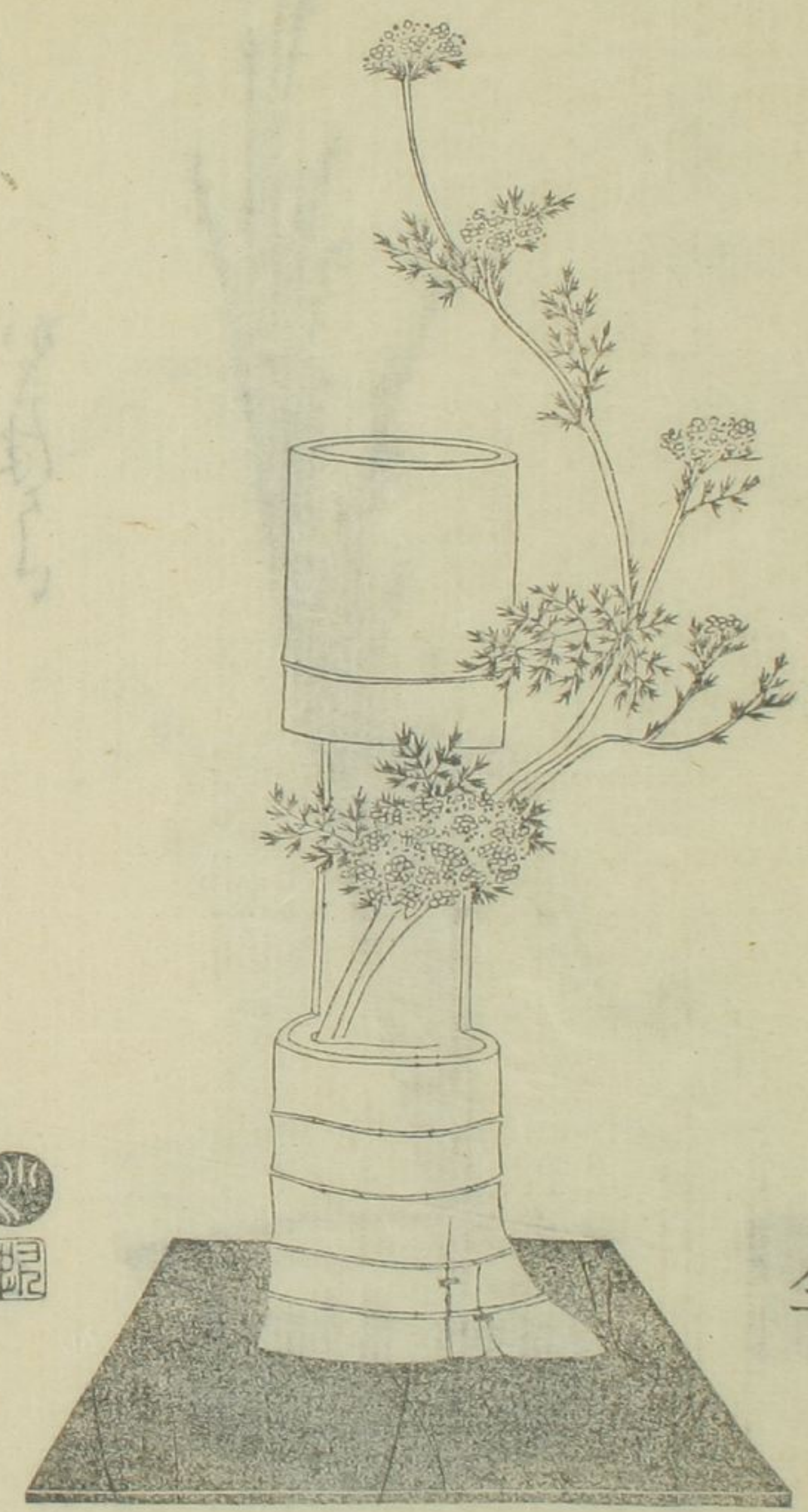


水仙



清家氏  
千本

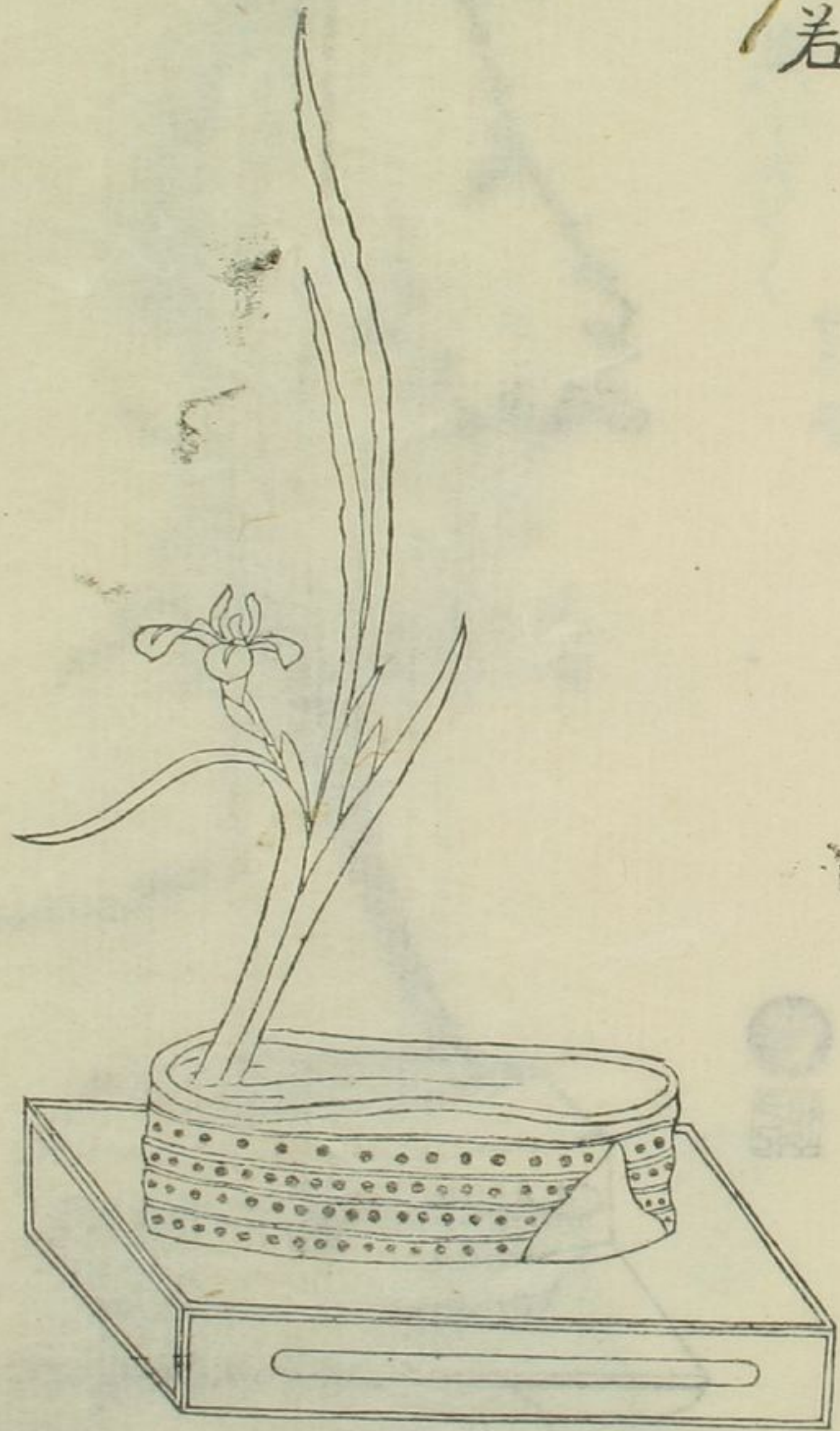
小人参



全

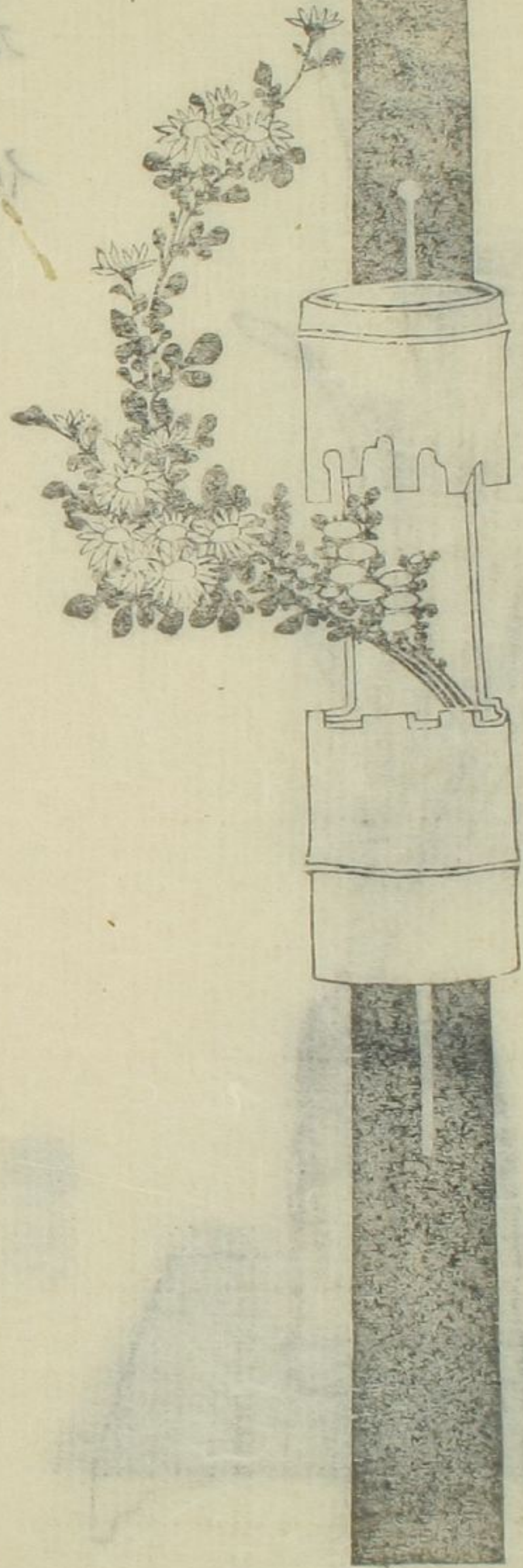


冬  
壯  
若



赤  
松  
花  
遊

赤  
中  
葉  
黃  
小  
葉



宇  
和  
島  
中  
尾  
柯  
亭

彭  
本





紅葉  
黄小ぎい  
熊笹

赤松  
同孤兔  
同新氷影  
女



梅

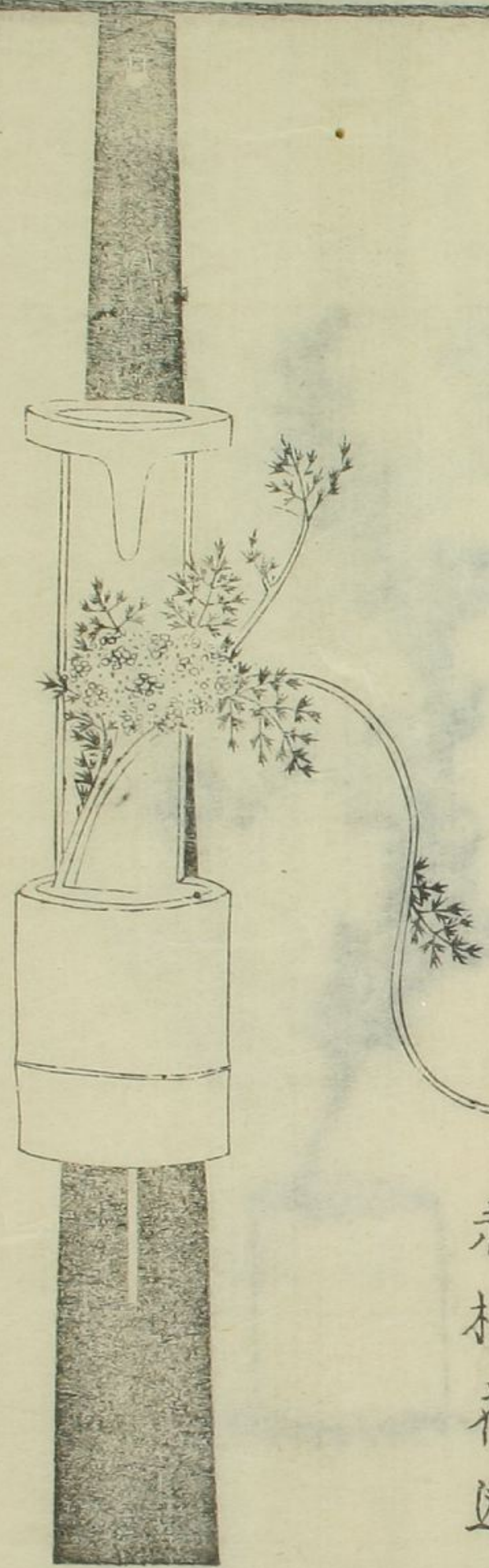
一草亭

赤松



五下  
丁六





赤松花遊

山  
馬  
心



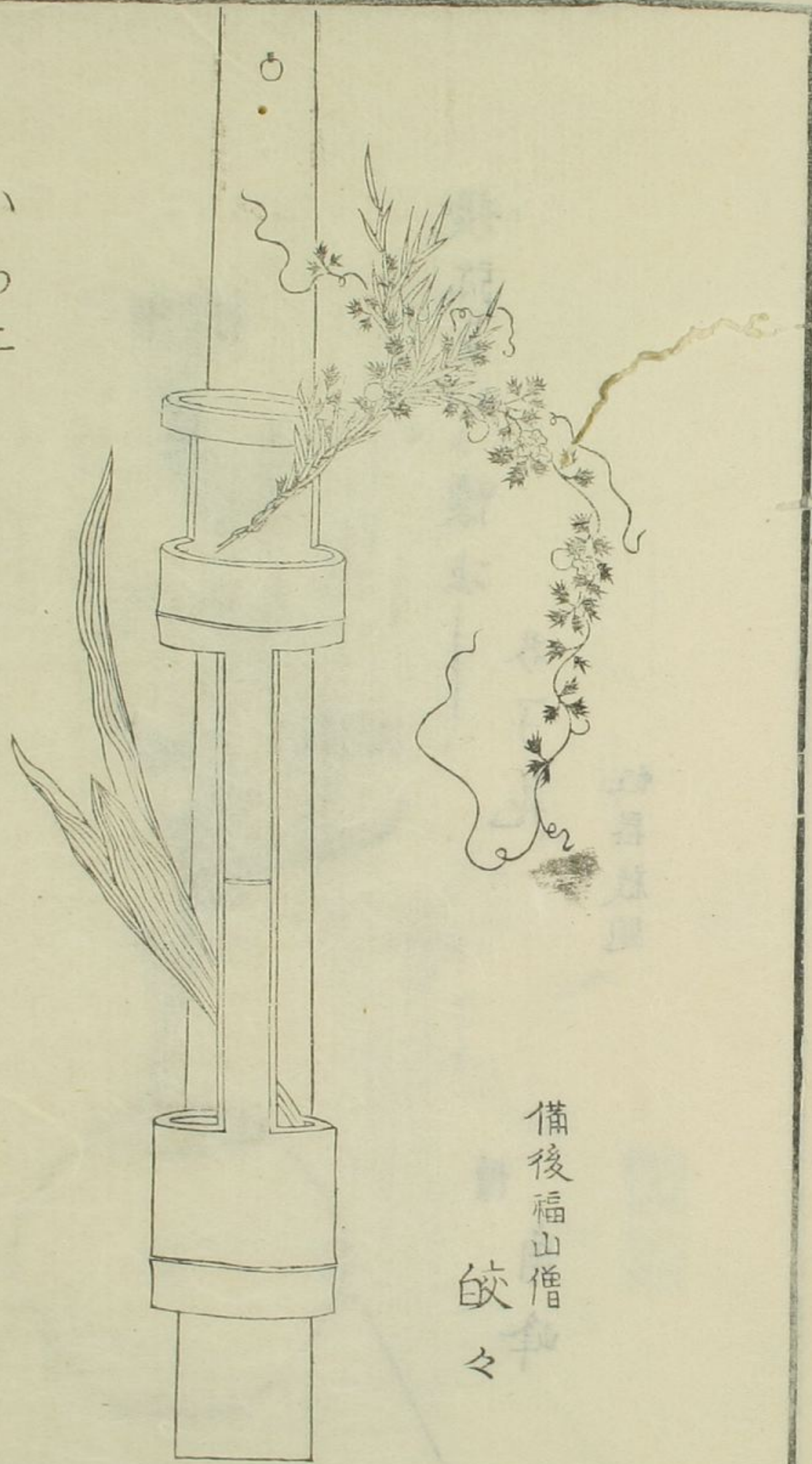
山午房

赤松花遊





いちこ  
堀小兼



備後福山僧  
敏々

白中菊



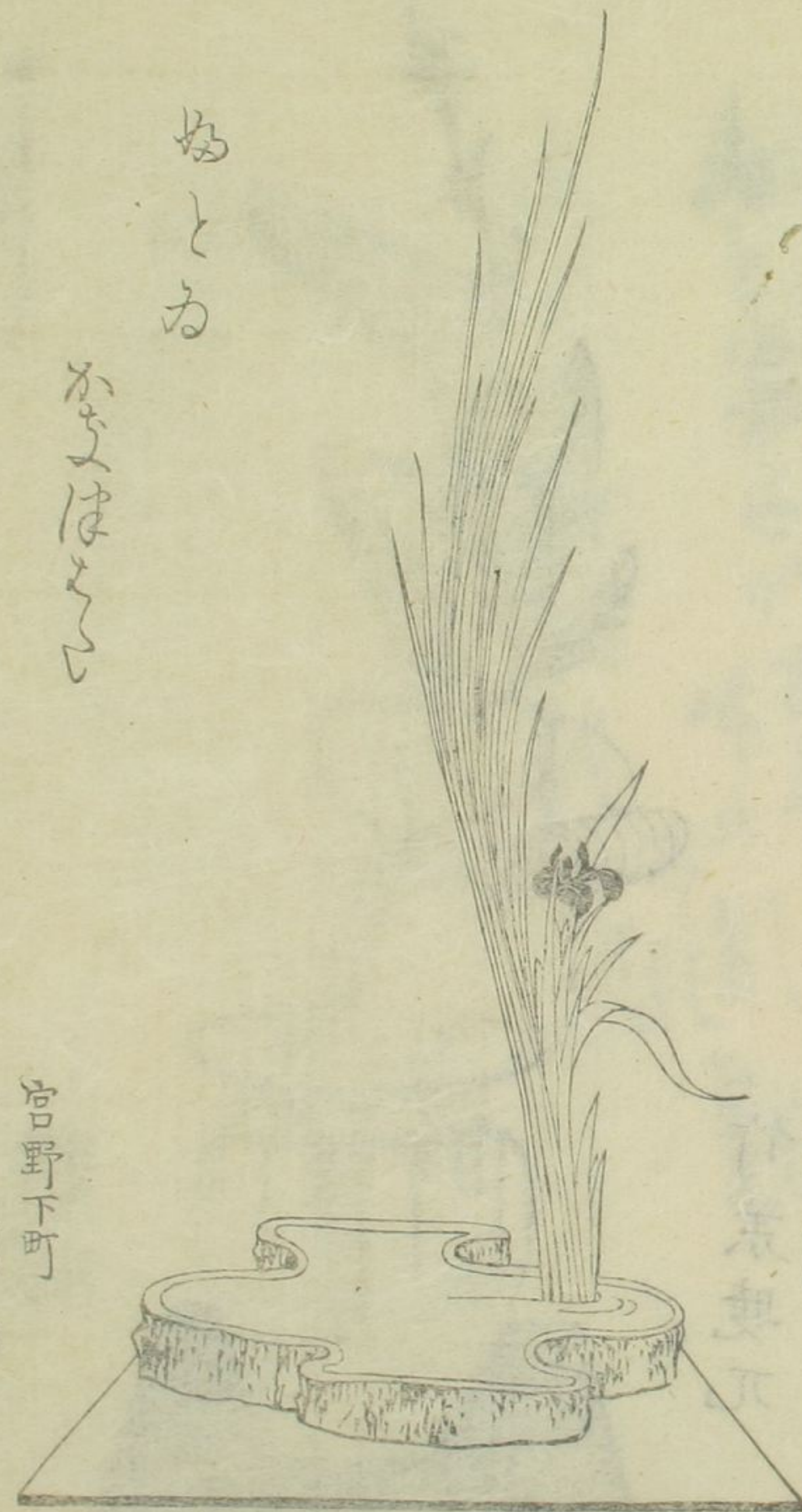
宮野下町  
上甲新柯

三十九



好とる

かまはら



宮野下町  
洞兩



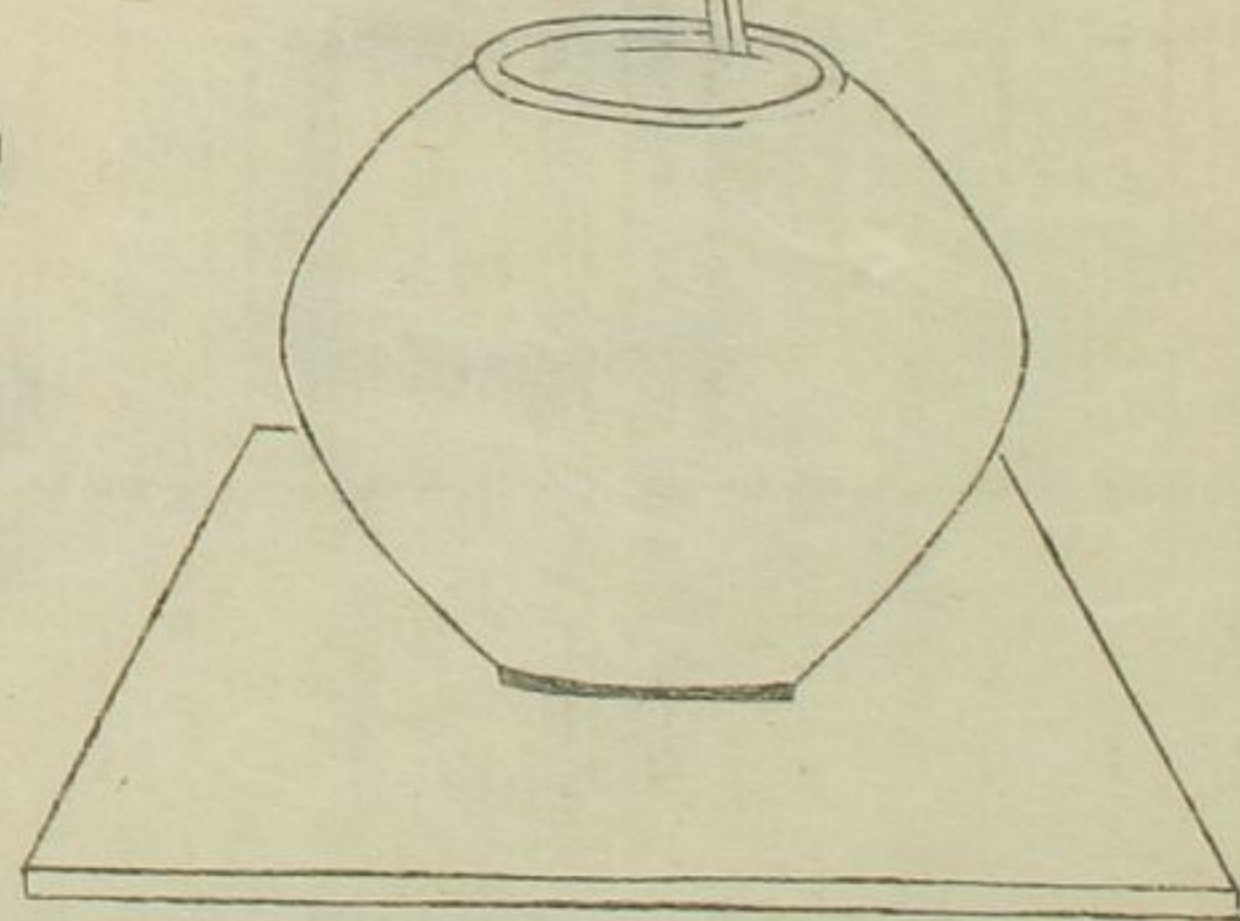
須弥といふ懐涼

芥子花

虹器戲題



僧  
角峰



年  
二



杜若



全

きりぎり



竹葉曉元





天  
漏

之



同氏  
幸女



竹葉曉升

不  
之  
升

皇  
仙  
卷



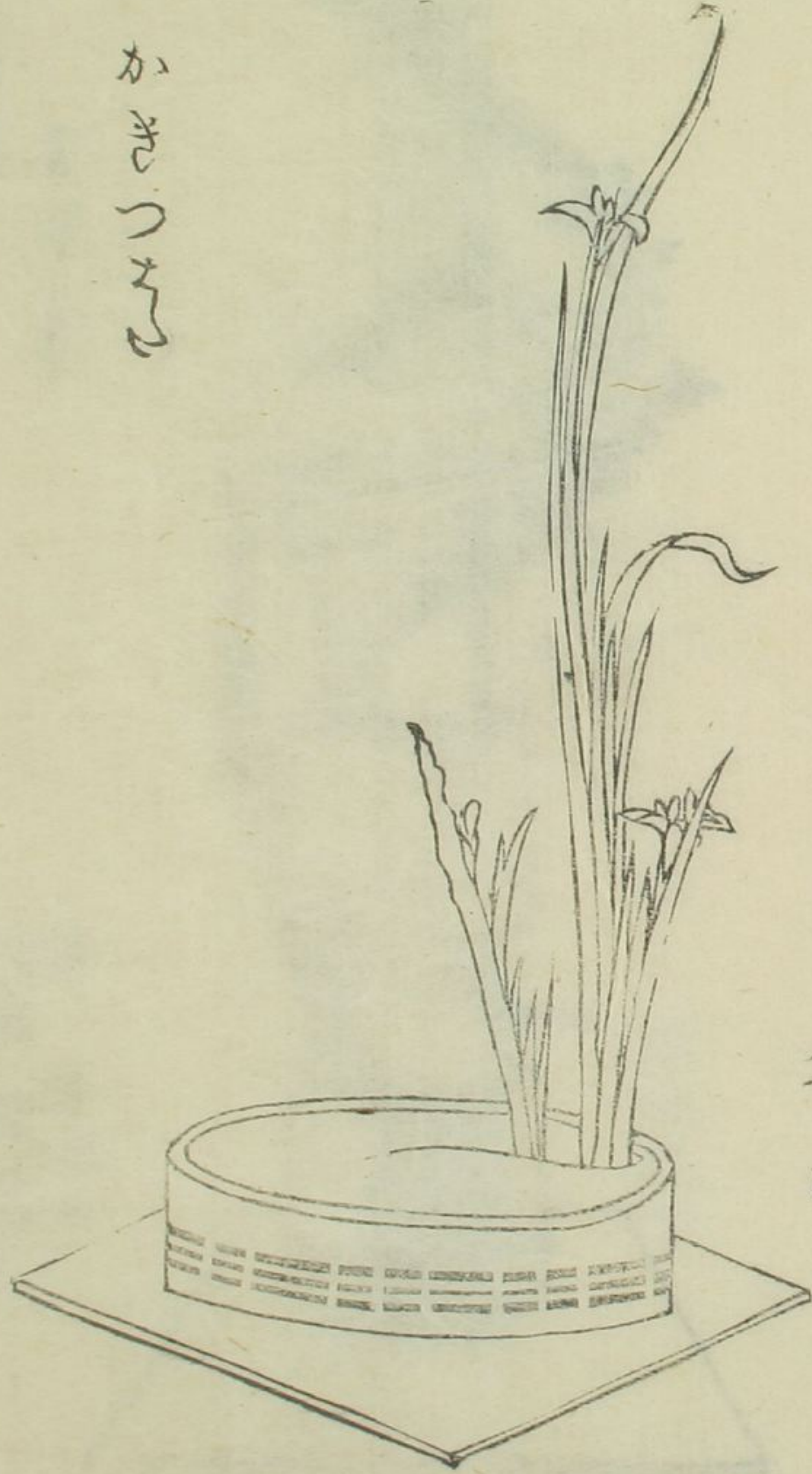
竹葉影我



年  
三



かきつばた



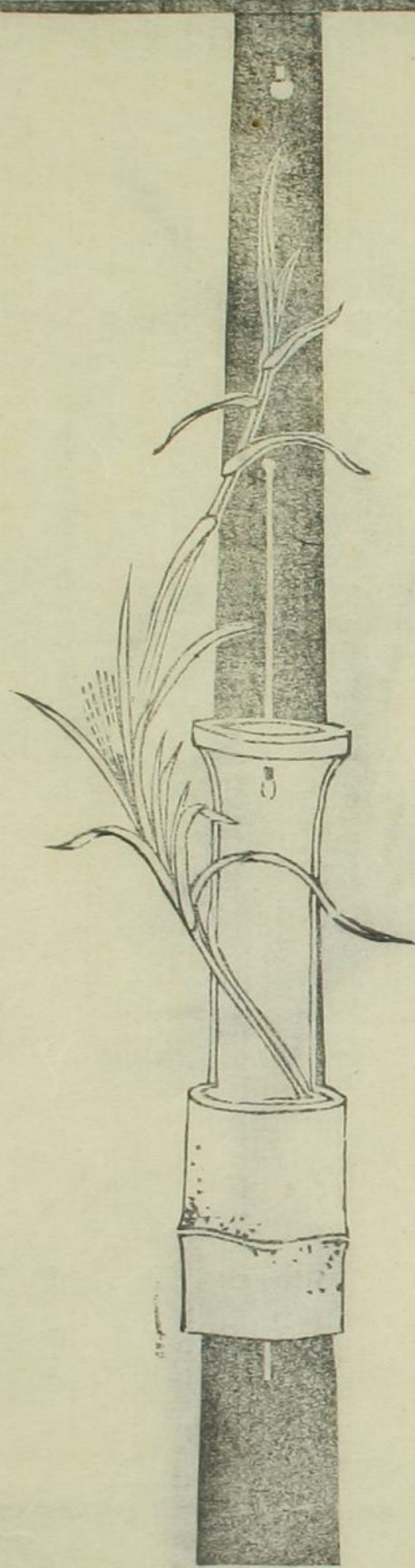
僧  
彼此

紫  
の  
菜



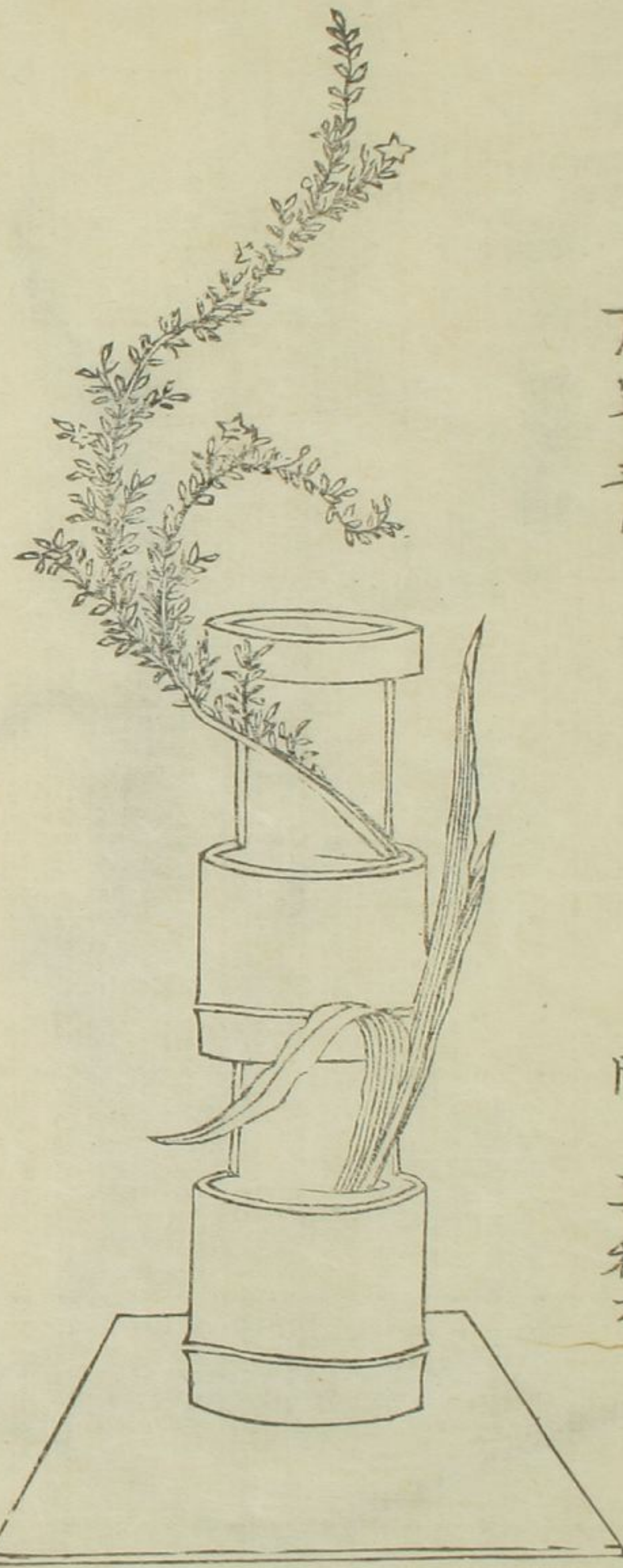
僧  
彼此





葭

松岡孤心



花拓插

万年青

山崎耕翁  
同喜和女

年下  
下五





柳  
馬蘭  
小菊

毛利露十

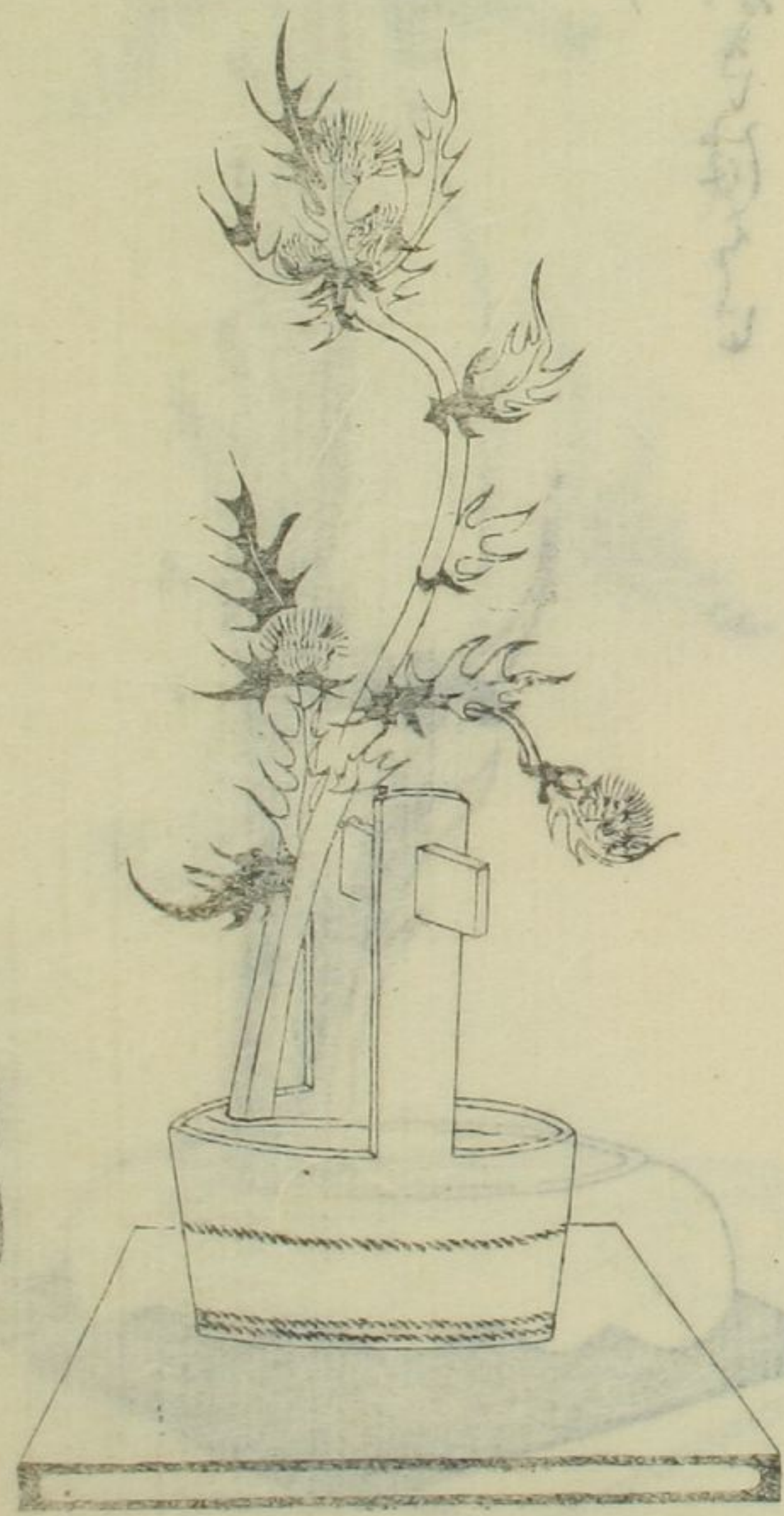


芒  
白中きく

西條  
梅霞亭  
一調



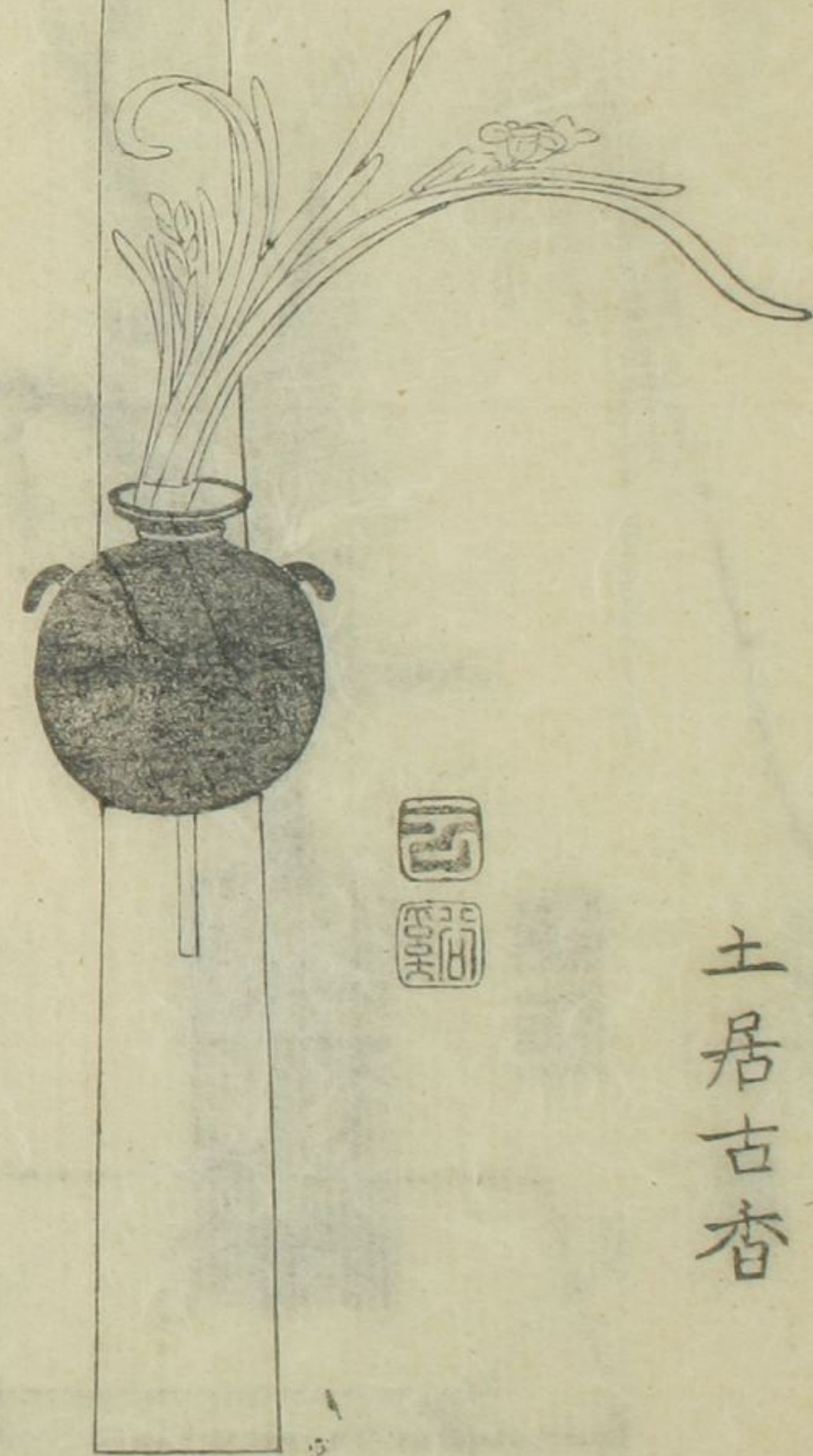
あさみ



吉野町  
松本佳慶



水仙



土居古香





南天

薊



全

ぬと丹

かきしほちい



全



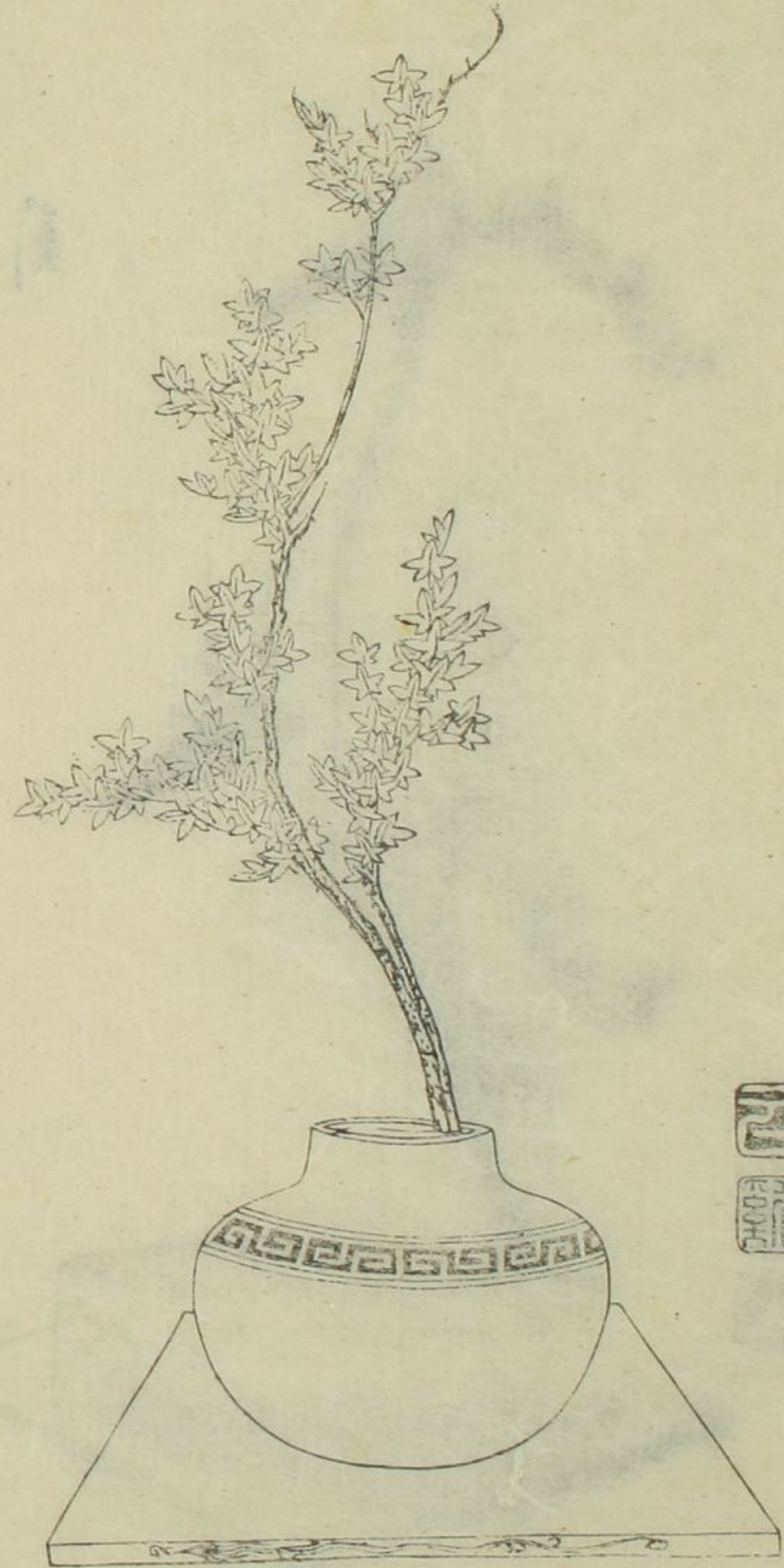
かきつばた



吉野町  
五ノ嵐桂下



もみぢ



今





作  
てんげん花



かえり



全  
全



丹の花



吉野町

八辻一瓢



芍薬



全



燕子花



吉野町  
越智孤圓



芍藥

惹子



全



錢葵



吉野町  
竹葉玄烏

全

燕石葵

山午房



西  
印

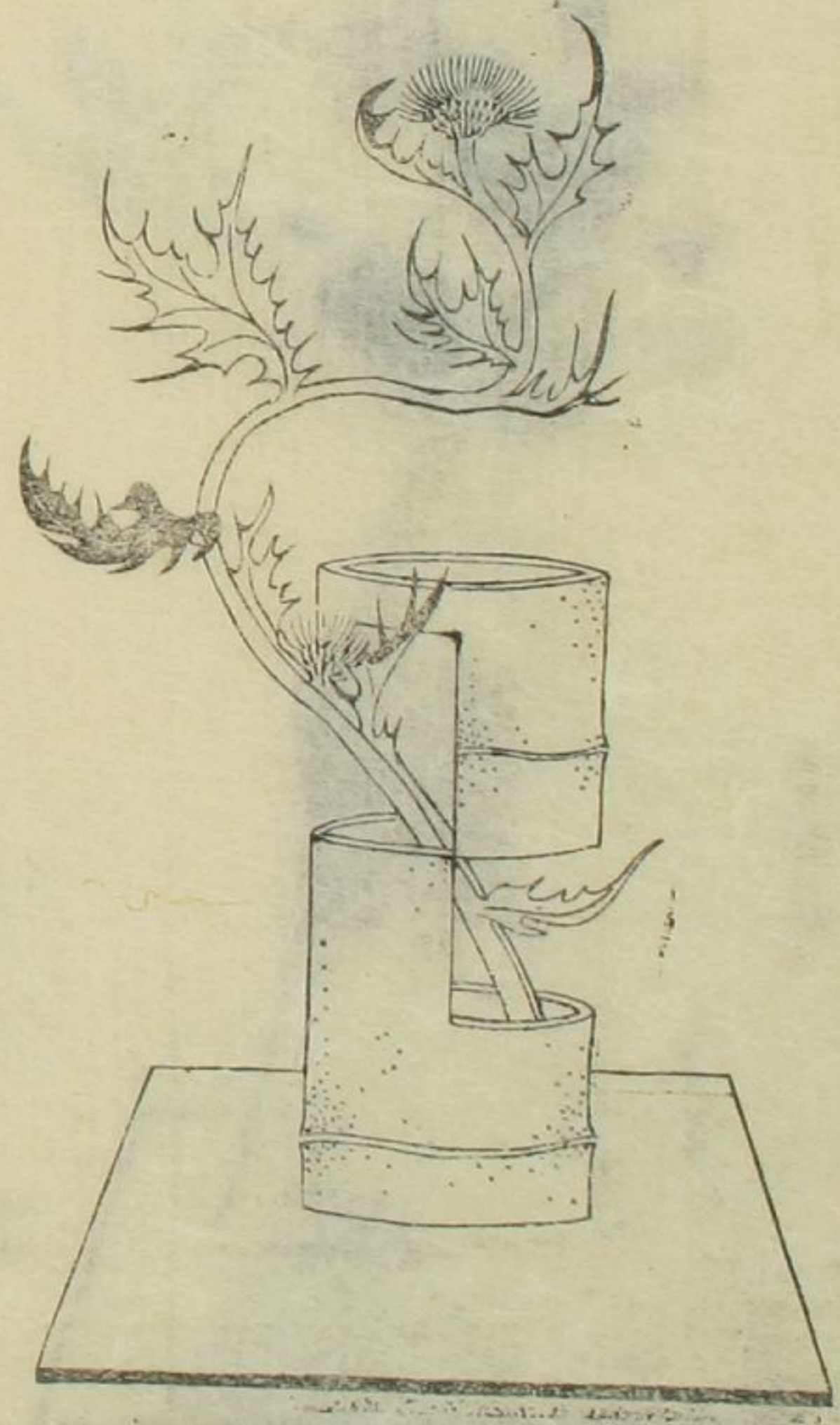
全





太藺  
たに

吉野町  
渡邊清川



あさみ

全

三田

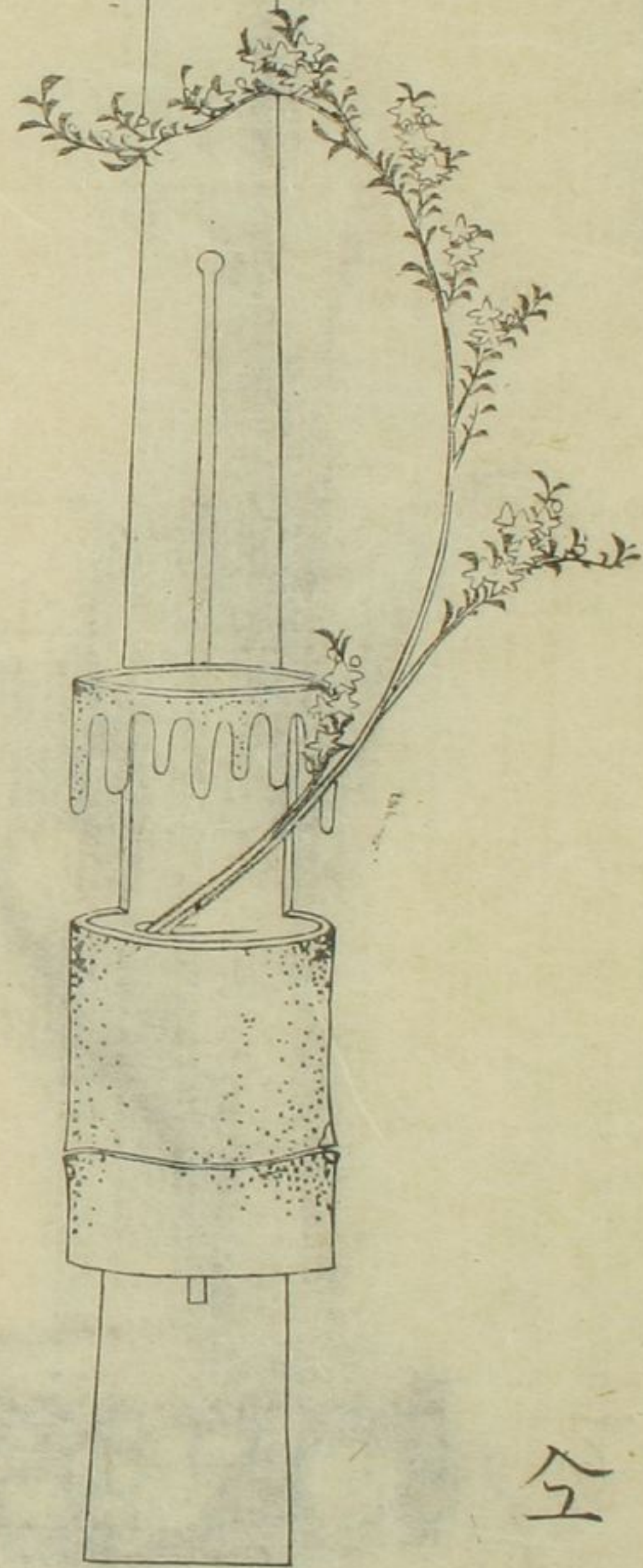




萩

萩あそび

宇和島  
中尾友松



うめさき

大薩

うめさき

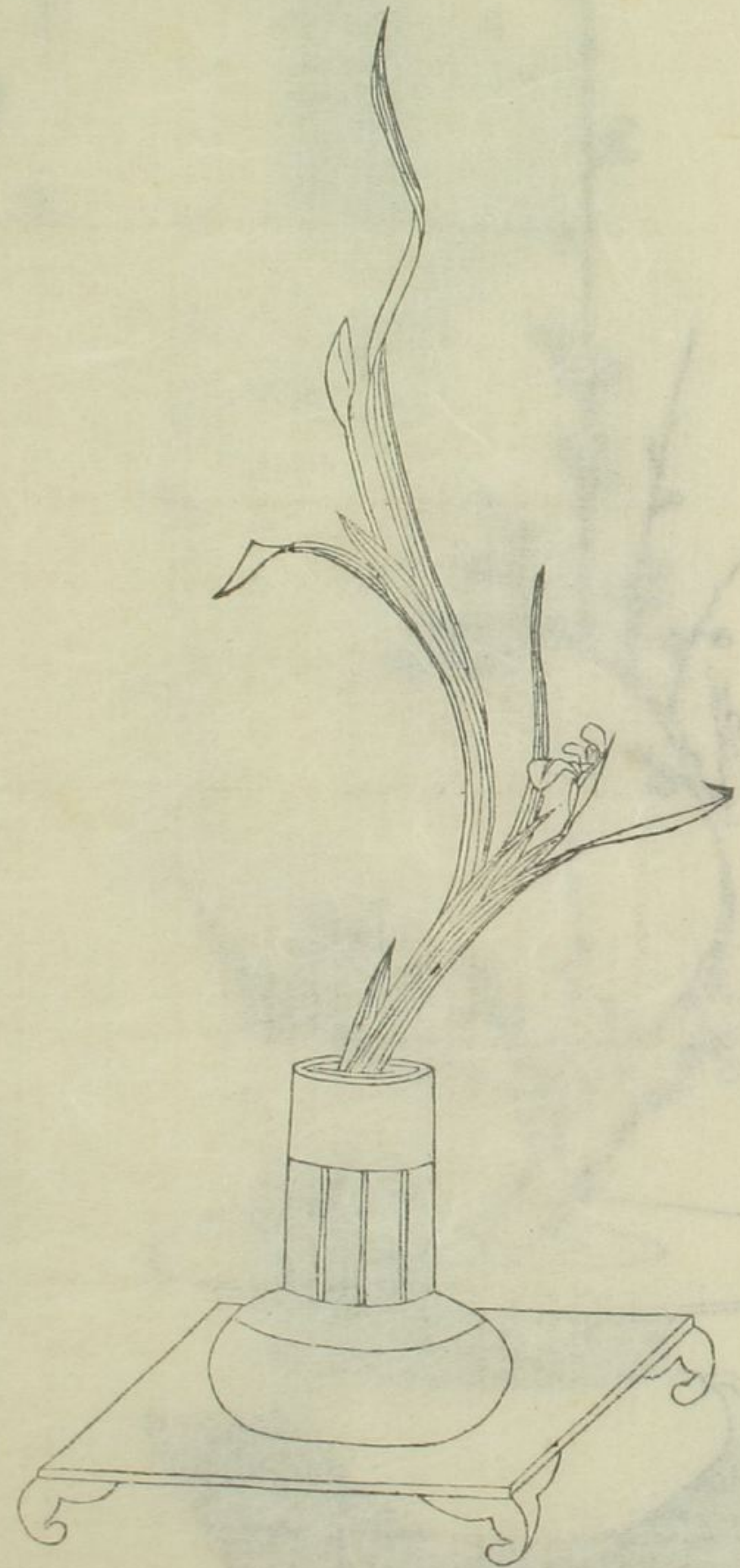
吉野

うめさき

全

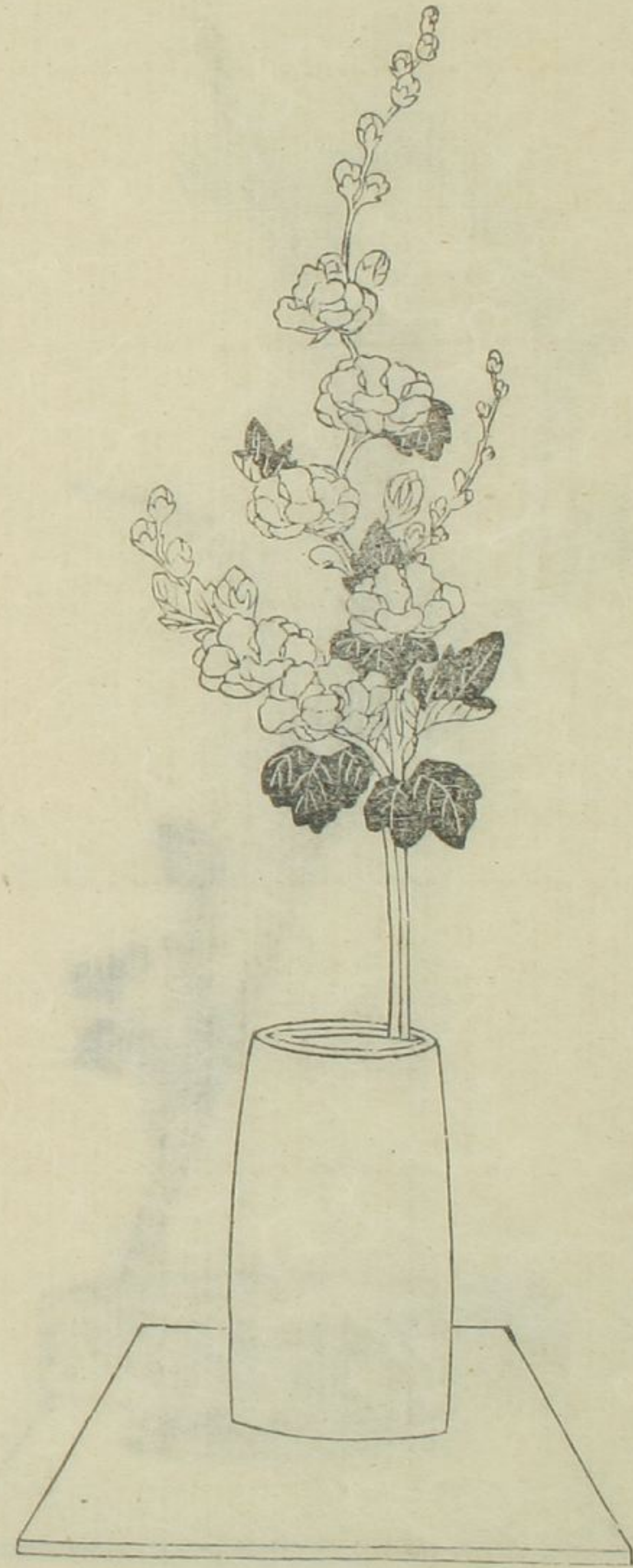


牡  
若



全

葵



全



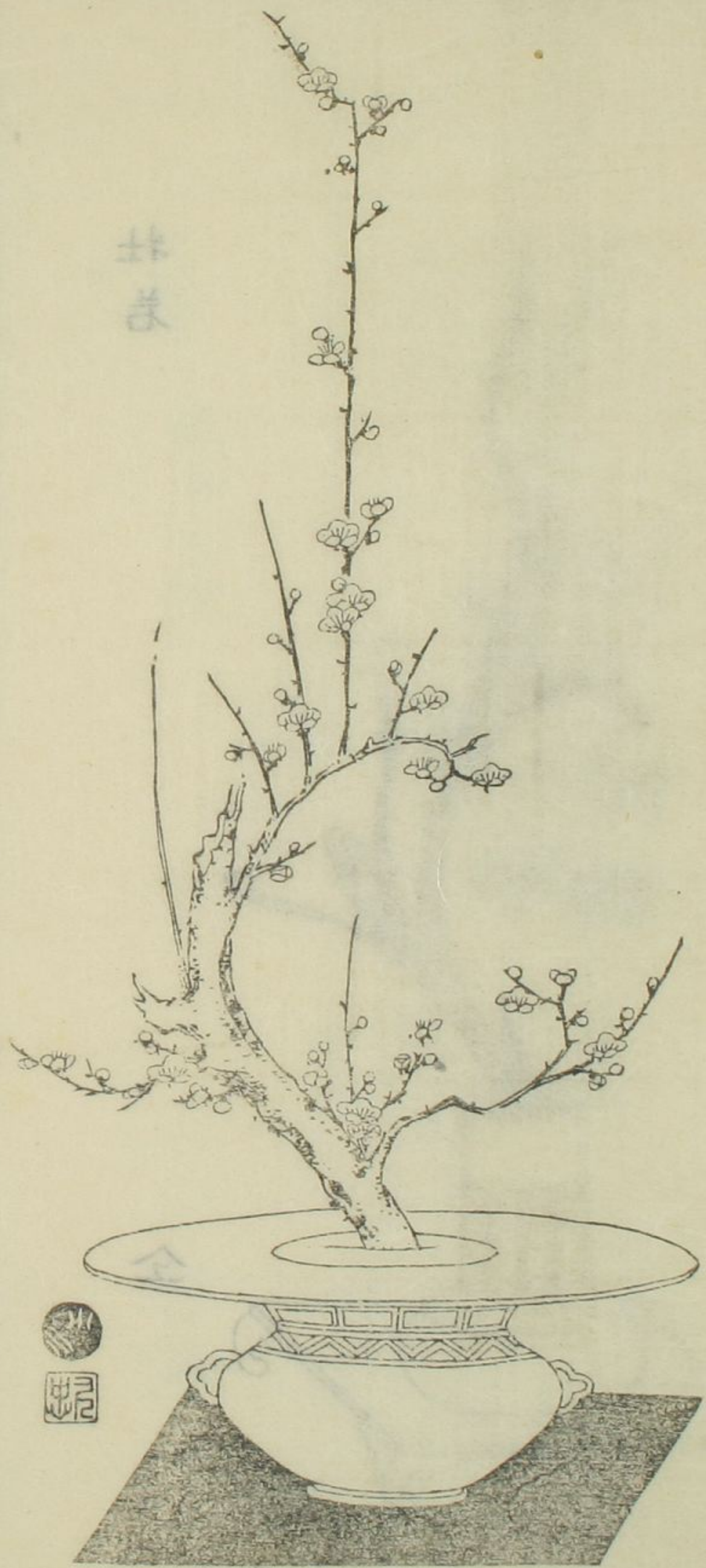
柳  
椿  
梅



早和鳥  
真秀齋如霍

梅

梅



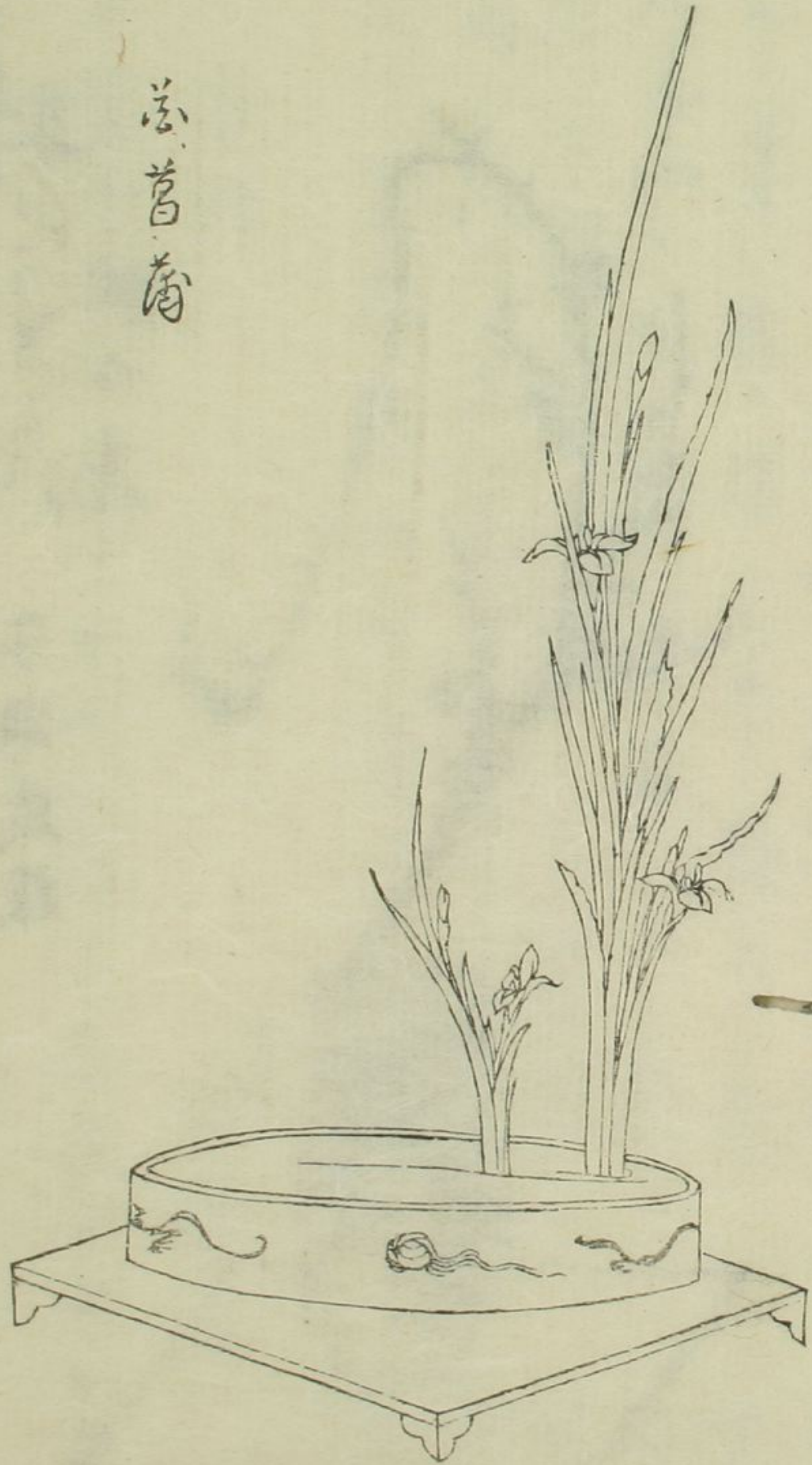
全



年下  
四七



菖蒲



宇和島山崎氏  
朱唇

七りん十一枚

か小きく



吾島餘糧

宇和島  
小川願神



子願殿  
 棋の花

子願殿題



不羨

印

い歌冬あ花と今、美や 宇宙は松  
 大膽身、うめの咲居る深山 うき子  
 世より多きし雀は、はくや梅乃花  
 日如暮や 垣の隣 志 毒 の 影  
 う理と松と、吹くうらに棋の真  
 梅雨とれ乃 不二見あけたり 暮  
 花乃 雪亦因 雨も 降 陰世

寿詞

豊後  
 僧 慈直

高人嬰鍊授群奇年老壯心點不徇徐向傲霜  
 松秘標仙壽集到古藤所

豊后東高田

全日田

金弗水 月化 雙美 南美 翠蘿 切瑳 蘭雪



全

全 僧指月

方外階眉見白毛羊光相引照去曹冰心一石  
壺中月海得壽山美文高

三指くは猿の尻のく見多く是れお母指かき世に

宇和島 東都 真顔

下にたてゑきまもふま流の流は代も流も花のあきま

お白く旅り由代と塔のふ遠出くはそく大江戸の松

おはきし由代乃及指く人んは市村杖つく老を新の流

う免のそ流笑ふ門中を流の福事さうふ易をり侍多社

六十に目さひりまの乃朽ぬるかりは長生とやせん

たとふいそも流き松方別行中すあまの夢れく

自然山人



爰に述べ安房の末葉大花の勢五斗飯年此星相の徑幽お顔長けけり眼太く口深く鼻

筋より言舌さそかきくも常にかんさきりて笑り大須齋の長物賜ふ花に遊ひて花ふ

入る茶のあきま茶室の題子心の駒小舞りていふ調もまき吉井し則の道迷ふお

源氏に花中流のう角一はまは花笑ひ鳥唱ふ歌一四時をいひをたり一山又山海又海打

極りおはち守都の郡の海水帯に居ある御國に旅枕中おははは 又ある日約半打しけん

浦金さきくも拜領の本流頭巾の流さくはま部一く喧は百約置て七百九十八の害にけり彼

まき中唐國の滑瀆の約一君助 ちんかかき生れにり一其耶せあし一り

鏡刃のすくしりし流り一まきか一巻るあかか制する者いもさりな一道あはきり

遊行一讀別ある金羅羅三十五度ふ過ぎくも是れはまをの漂く飄く子女一く孟の酒に甚は

此り一の餅ふ浩然の氣お流り行所も是れおり月は夕ア花の朝か一こころり一り

遊ふふ二念かく拵むり花の無か拵 奴赤坂雲の部一風はありて定まき中江野をんを

乏かは若くは寒く浪是國恩天恩おるも切冷水かかふ春ん音もかき香もかきり







今年竹のたけり 動く明の月  
散り火の行楽も志すぬ亭主哉  
七種や 音ふおひても西ふく  
踊る襦袢舞ぬ牡丹の酔え後  
水仙にようきし日御の早さうりか  
う律舞はうに花の盛りのち  
船中ゆく所の虫さや 長閑さや  
はりくくく見れは古き哉  
尾うち打目夜の螢あけく  
く野山杉のくく人へ房りりり  
野の馬乃乳房もあやや雉子の声  
富士は雪うちあけくく暑さうりか

世の塵はうく花の枝を  
辛苦して居ひて花子のあかりりか  
硯の海乃かきりや 旱日雨  
ちんちんと指ふ指あ。田植のち  
湯浴して令にうや 夏乃月  
多紫粉盆入きく。故帳の浮世うか  
散る花や 又咲まへは葉の曇り  
争ふきくあひして西守あきく  
新學大夫の道中に見る  
雨も日もくくぬ白や 男  
登と故乃世新ふ更きりあきく  
まきくく 未摘花の名も



袴の意ぬ同土〜 涼〜 簞〜  
 日々〜 や只さ人あぢふ松の歌  
 野ノ釘房の歌ふ〜 后此月  
 三千坊あ〜 寒〜 後の月  
 秋寂〜 斧ノ振上る妙なり〜 音  
 楊ノ歩〜 巨燧乃〜 年ノ雪  
 何〜 涼〜 竹掛船  
 あら〜 涼〜 竹掛船  
 待 意  
 来ぬ人乃 名宛書〜 火桶〜  
 三礼不沖流〜 喰ひ〜  
 床〜 さ〜 古々の登。喰ひ

洗ひ馬外尔物喰ふおぢ話 有  
 踏杖や更此御殿人お月〜  
 春雨〜 忘〜 出〜  
 蟹ハ目釘物〜 遠出。柳哉  
 吟小事〜 揚羽乃 櫛〜  
 等閑尔暮きり 明た字春のふ  
 森一の袖花〜 又雨〜 櫻〜  
 意き〜 日本一度尔猫の影  
 故きり火此香〜 明乃月



うり 穉や ちりふりし 脊中の穴  
隠きしりも 骨かろ 鼻乃 扇うしち  
腰にきりて 穉のちきりる 園扇や  
竹ハ ちりふりし 竹にりる 五月園  
脊中に 泣きし 乳多は 寐入る 暑さりか  
く 虫の角たきりて 早 立 ち 部  
涼 一 さりや 魚ふちさき 寸 下 三里  
子法 園ふ 偏きりて ちりふりし ちり  
多 穉 一 乳房 ぬく める 田 極  
五月 雨や 茶ふりし 川入る 水も  
五 ちりふりし 後乃 車法 竹の  
ちりふりし 腹 一 届く 穉や ちりふりし

声 ちりふりし 枝ハ ちりふりし 河 島 ちりふりし  
金 鹿 若の 下ゆり 水 乃 音  
引 出 一 の 風 袖 口 に 穉 ちりふりし  
遠 不 星 不 ちりふりし 初 ちりふりし 竹 ぬ 人  
か ちりふりし 穉ハ 梢 ちりふりし 動 ちりふりし  
名 月 一 表 の ちりふりし 市 乃 人  
茸 穉 一 ちりふりし ちりふりし 居 ぬ ちりふりし  
長 安 一 ちりふりし ちりふりし 見 ちりふりし 碓 ちりふりし  
牧 方 一 ちりふりし ちりふりし ちりふりし 尾 穉  
ちりふりし ちりふりし ちりふりし ちりふりし ちりふりし  
幽 灵 一 ちりふりし ちりふりし 骨 穉 一  
大雪 一 月 一 園 ちりふりし 物 凄 ちりふりし

三十一  
五二

三十一  
五四







涼——さむく人へ遠くふあつるうき  
青柳乃かろく——以新 嵐可南  
ハツの日也 燦乃 坊島にぬまへ起  
旅ふくまへし夏もありし月を宵

夏の日脚崎の沖に流るる

あの帆ちちあは帆ハうちへ 夏乃海  
梶の葉也 似しと手あしと手 似し船  
わりかさ也 嫁り言佛の如霜月  
菜乃花也 佛檀の戸法部より  
ちり跡の世繁乃 けりや 夕附日  
船頭の麻白く見く  
日黒くの麻白く見く 目あしうか

さつとろりと 寝る人あまら 菘子坊主  
春風也 二月過ぎハる家乃 風  
幕の初歩し花の世界の如く欠けり  
縄の往き来り言麻の顔をむらまをる  
大切尔益もいりや 下戸の花見  
雪ふぬまもり 遠出の月形面 粟  
夜也 寒——水音も江に吹く来る  
清冷也 尾まへし 届く息 つらひ  
蓮乃糸つあきしうもてや 菘のちる  
首は耳ふか人ともいり 松魚  
稻妻也 巨雉の火あもまきしうか  
酒——かりはる 御代乃 御田植



糞荷糞小人糞冷糞羅生門  
 春雨糞眠糞に影糞のあゝあゝ  
 高買糞多柄糞鏡糞吟糞顔  
 金銀糞宿糞さ糞大三十日  
 箱舟糞跡糞案山子糞乃糞轉糞  
 い糞思糞見糞月糞鏡  
 握糞飯糞と包糞か糞き糞は糞く糞  
 箱妻糞建糞道糞あ糞戸糞の糞光糞  
 ち糞り糞た糞ん糞は糞く糞や糞火糞燧糞  
 ち糞の糞乙糞花糞見糞居糞る糞女糞房糞  
 今糞の糞心糞の糞後糞の糞後糞の糞子糞  
 後糞の糞住糞乃糞火糞勢糞つ糞ま糞や糞田糞際糞

三十一 五七

歌

仙

立六人六望六又六も六の六母六小六年六む六り六 虹六器六  
 春六灯六斜六小六翁六小六面六 木六偶六  
 猿六曳六笑六小六門六乃六り六考六信六く六 屋六鳥六  
 毎六紫六あ六に六敷六の六さ六真六 庵六十六  
 月六夜六出六寐六待六居六待六も六松六の六上六 東六門六  
 長六き六の六席六下六を六上六る六秋六風六 福六菜六  
 白六の六乃六小六猫六鼻六の六穴六さ六き六り六 百六嬰六  
 赤六の六あ六の六ひ六と六象六浮六の六雨六 羅六文六  
 木六植六く六る六人六の六木六の六節六あり六 萬六和六  
 学六の六鳴六け六よ六水六鏡六の六来六る六 露六海六  
 中六の六あ六の六眠六る六乃六も六恋六あり六 周六馬六  
 塔六の六き六の六乃六小六幣六の六折六れ六ん 指六月六

三十一 六



邂逅花居士需云祝亦卦仍而賦予童壽若來  
以賀賞  
風島我溪

新采子花書色新横斜 予自挾て去る事  
おまふ所收物外僊源ふかき矣  
樂猿の深山お出く去乃自  
去乃山水ハあつてもるのあり

探干に有船子もむくゆ涼か  
たつむら指さくのらふ落松系  
秋の蝶とのふ行ふ風情あり  
新は葉油に入しとそ人なり  
枯くさる水の風結とそ佳き  
足ゆもさすも常やぬめ馬

父若月斎の六十乃を初壽をて

すいもふあつし不老ゆ一乃花  
海流の皴のひくくと春の海  
六田我えくまうくさや百子多  
なつか董菴一見くくぬにたり  
きぬくの清きぬあり作ぬ人  
腸ふ若乃えん系信し踊うか  
中丸満園是もからまう寸麻の聲  
相干の日灯追ふ秋と感ふり淫  
多統乃たりを右の落葉あつち  
おまき一若ふかきくぬ清の声  
新しき日の暮りたり松の内  
世の中おりさうたり麦乃秋

子願  
龜未  
不羨  
子

龜







梅買ふる三子年乃りふけりも  
周防小松 二香  
 新香に徳を賜わすの岩乃上  
 ぬつ多し又養やうん忘衣始  
二秀  
 白のあつ撰とまひ字のむ  
 提重の仲にきふの梅のつ那  
湖者  
 乃ちあつまや久き秋の松  
十六 可登  
 老く散るもきし梅よ歳世經ん  
老仙  
 まつ風の其姿傍長し竹の色  
女 蒼亭  
 二十の春のむし  
 私と春のあつ字乃二物もあき二月相日 五里芳

今若文化壬申浪音亭主人虫器叟  
 固甲子兒孫將奉壽祝其壽誕叟語  
 之曰世人開壽筵會賓客金壘中坐  
 肴核四陳飛觴舉白慶杯歡呼數日  
 而罷益盛則盛矣然我久隱退養靜  
 豈堪其應接煩雜乎願以其酒錢之



費辱

君侯所賜之壽言及諸君子朋友親  
戚之歌詩借歌侖居常所嗜之瓶  
花以壽梓傳於永世則其榮孰與彼  
金罍中坐有核四陳飛觴舉白慶抃  
歡呼如日而罷者哉於是兒孫喜以

相剗剗不日終功若余好吏之吏行  
躋上壽之域復有斯舉最所望也因  
書數言簡端

高月古道





文化九壬申春

芙月齋缸器著述

補助門人

臨海舍指月  
一草亭子顯

同十癸酉季冬出板

月光齋布金

南潒吉田

滄浪亭藏書





早稲田大学図書館

011688995037